一ノ一ノ

改正増補

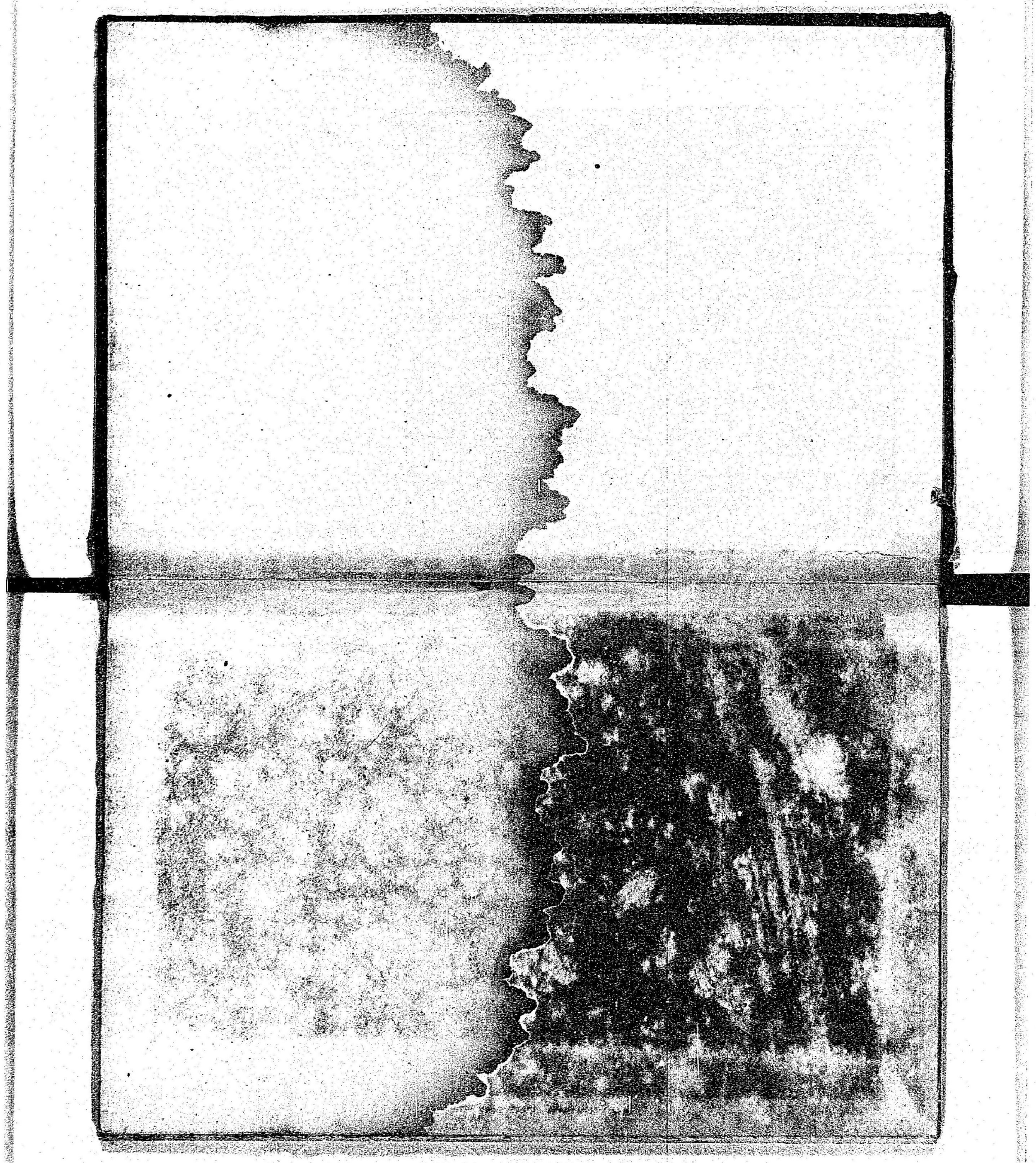
# 刑治罪法

明治十九年印刷

刑法治罪法
參考諸布令
賭博犯處分規則
改正監徴則
改正證券印稅規則

合卷

東京書肆 春陽堂藏



特14
151

# 刑法目錄

第一編 總則
第一章 法例 明治十九年五月六日内務省贈付
第二章 刑例
第一節 刑名
第二節 主刑處分
第三節 附加刑處分
第四節 缺席處分
第五節 刑期計算
第六節 假出獄期滿免除
第七節 復權
第八節 加減例
第三章 不論罪及ヒ減輕
第一節 不論罪及ヒ減輕
第二節 自首減輕
第三節 酌量減輕
第四章 再犯加重
第五章 加減順序
第六章 數罪俱發
第七章 數人共犯
第八章 正犯
第一節

第
第第第

第一節　謀故殺ノ罪
第二節　毆打創傷ノ罪
第三節　殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪
第四節　過失殺傷ノ罪
第五節　自殺ニ關スル罪
第六節　擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
第七節　脅迫ノ罪
第八節　墮胎ノ罪
第九節　幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪
第十節　幼者ヲ奪取誘拐スル罪
第十一節　猥褻姦淫重婚ノ罪
第十二節　侵告及ヒ誹毀ノ罪
第十三節　祖父母父母ニ對スル罪
第二章　財產ニ對スル罪
第一節　竊盜ノ罪
第二節　强盜ノ罪
第三節　遺失物埋藏物ニ關スル罪
第四節　家資分散ニ關スル罪
第五節　詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
第六節　贓物ニ關スル罪
第七節　放火失火ノ罪
第八節　決水ノ罪
第九節　船舶ヲ覆沒スル罪
第十節　家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪
第四編　違警罪
刑法附則目錄
第一章　主刑執行
第二章　監視
第三章　假出獄及ヒ特別監視
第四章　刑事裁判費用
第五章　賠償處分
賭博犯處分規則

## 第一編　總則

### 第一章　法例

第一條　凡法律ニ於テ罰スル可キ罪別テ三種ト爲ス
一重罪
二輕罪
三違警罪

第二條　法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

第三條　法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス
若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ決判ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條　此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條　此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ
若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ揭ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

### 第二章　刑例

#### 第一節　刑名

第六條　刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス
主刑ハ之ヲ宣告ス
附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條　左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス
一死刑
二無期徒刑
三有期徒刑
四無期流刑
五有期流刑
六重懲役



七輕懲役
八重禁獄
九輕禁獄

第八條　左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
一重禁錮
二輕禁錮
三罰金

第九條　左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス
一拘留
二科料

第十條　左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
一剝奪公權
二停止公權
三禁治產
四監視
五罰金
六沒收

第十一條　刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ捡束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第二節　主刑處分

第十二條　死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄內ニ於テ之ヲ行フヲ得ス

第十三條　死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

◎刑法第一編○刑例

第十四條　大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス
第十五條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス
第十六條　死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒヲ要ルコトヲ斷サス
第十七條　徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下トス
第十八條　徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス內地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス
第十九條　徒刑ノ四六十歲ニ滿ル者ハ通常ノ定役ニ服セス
第二十條　流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服ス
有期流刑ハ十二年以上十五年以下トス
第二十一條　無期流刑ノ四五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得　有期流刑ノ四三年ヲ經過スル者又同シ
第二十二條　懲役ハ內地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歲ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ
重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下トス
第二十三條　禁獄ハ內地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス
第二十四條　禁錮ハ禁錮場ニ留置シ定役ニ服セス
重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下トス
第二十五條　定役ニ服スル四八ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舍ノ費用ニ充シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以內ハ給與ノ限ニ在ラス
禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下トス
第二十六條　罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス
第二十七條　罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月內ニ納完セシムヘシ若シ納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス
罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス
若シ禁錮限內罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタルモ又同シ
第二十八條　拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下トス仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス
其長短ヲ區別スヘシ
第二十九條　科料ハ五錢以上二圓九十五錢以下トス仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス
第三十條　科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ完納セシムヘシ若シ限內納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ
第三節　附加刑處分
第三十一條　剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス
一　國民ノ特權
二　官吏トナルノ權
三　勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
四　外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
五　兵籍ニ入ルノ權
六　裁判所ニ於テ證人トナルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
七　後見人トナルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス
八　分散者ノ管財人トナリ又ハ會社及ヒ共有財產ヲ管理スルノ權
九　學校長及ヒ敎師學監トナルノ權
第三十二條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十四條　輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限開始ト共ニ其刑ノ執行ヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止ム監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財產ヲ治ムルコトヲ禁ス

第三十六條　流刑ノ囚繫中免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治產ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得

第三十七條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

第三十八條　輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本刑ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

第三十九條　死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年監視ニ付ス

第四十條　監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ亦タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條　監視ニ付セラレタル者ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第四十二條　附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月內ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條　左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一　法律ニ於テ禁制シタル物件

二　犯罪ノ用ニ供シタル及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件

三　犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條　法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又所有主カ贓物ノ情ヲ知ラサル時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

## 第四節　徵償處分

第四十五條　刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條　犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラルヽト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免ルヽヲ得ス

第四十七條　毀入其犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條　裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直ニ之ヲ被害者ニ還付ス

## 第五節　刑期計算

第四十九條　刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條　刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第五十一條　刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算若シ上訴ヲ爲シタル者ハ檢事局ニ於テ其上訴不當ナル時ハ檢事局ニ於テ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス

一　犯人自ラ上訴シ又ハ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス

二　檢察官ノ上訴ニ係ル者ニ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三　上訴申保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ノ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條　刑期限內逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

## 第六節　假出獄

第五十三條　重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過シ無期徒刑ノ四分ノ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第五十四條　徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル間仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條　假出獄ヲ許サレタル囚保護觀察ニ付スル間ニ於テ善良ノ擧動ヲ爲ス見込ナキニ至リタルトキハ假出獄ヲ取消スコトヲ得

第五十六條　假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サルルコトヲ得ス

第五十七條　刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サルルコトヲ得ス

第七節　期滿免除

第五十八條　刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條　主刑ハ左ノ年限ニ經テ期滿免除ヲ得

一　死刑ハ三十年

二　無期徒流刑ニ二十五年

三　有期徒流刑ハ二十年

四　重懲役重禁獄ハ十五年

五　輕懲役輕禁獄ハ十年

六　禁錮罰金ハ七年

七　拘留科料ハ一年

第六十條　剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條　期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算ス

第六十二條　刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ關スル裁判ニ係ル罰ハ其宣告ノ日ヨリ起算シ拘留科料ハ最後ノ命令ノ時ヨリ起算ス





第八節　復權

第六十三條　公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條　大赦ニ因テ免罰ヲ得タル者ハ直ニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罰ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

第六十五條　復權ハ將來ニ對シテノミ效力ヲ有ス

第三章　加減

第六十六條　法律ニ於テ刑ヲ加重減輕スヘキ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第六十七條　重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一　死刑　二　無期徒刑　三　有期徒刑　四　重懲役　五　輕懲役

第六十八條　國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一　死刑　二　無期流刑　三　有期流刑　四　重禁獄　五　輕禁獄

第六十九條　輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條　禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得

第七十一條　禁錮ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ拘留ニ處スルコトヲ得

短期十日以下端數二圓九十五錢以下ニ及ヒ時ハ亦拘留科料ニ處ス

第七十二條　拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等

◎刑法第一編◎加減例

ヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日
以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス
第七十三條　禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス
第七十四條　附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シ
タル時ハ止タ主刑ヲ科ス

## 第四章　不論罪及ヒ減輕

### 第一節　不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條　抗拒ス可カラサル强制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス　天災又ハ意外ノ變
ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若シハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ
第七十六條　本國長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス
第七十七條　罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス　罪本重カル可シテ犯ス時
知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ス　法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヲ
得ス
第七十八條　罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス
第七十九條　罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スル
過ヤサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得
第八十條　罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス
別ナシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スル
ヲ得
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ
第八十一條　罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留
第八十二條　瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留
置スルヲ得

第八十三條　逢警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サルト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス
滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ
其罪ヲ論セス
第八十四條　此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各其本條ニ於テ之ヲ記載ス

### 第二節　自首減輕

第八十五條　罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ
係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス
第八十六條　財產ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ
外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス
第八十七條　財產ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同シ前二條ノ例ニ照シテ
處斷ス
第八十八條　此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ揭ケタル者ハ各其本條ニ從フ

### 第三節　酌量減輕

第八十九條　重罪輕罪逢警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得
法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得
第九十條　酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

### 第五章　再犯加重

第九十一條　先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
第九十二條　先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
第九十三條　先ニ逢警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯逢警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再ヒ
其逢警罪裁判所ノ管轄地內ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス
第九十四條　再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス
第九十五條　刑期限內再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ヲ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役
ヲ終リ

○刑法　第一編　○不論罪及ヒ減輕　○再犯加重

ニ服セサル者ヲ後ニスル若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス　罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴収ス

第九十六條　陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條　大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十八條　三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章　加減順序

第九十九條　犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス　一再犯加重　二考想減輕　三自首減輕　四酌量減輕

第七章　數罪俱發

第百條　重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス　重罪等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス　輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷スヘシ

第百一條　逮警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第百二條　一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス　若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第百三條　數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從テ時ト雖モ其役數及ヒ徴償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章　數人共犯

第一節　正犯

第百四條　二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第百五條　人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第百六條　正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス

第百七條　犯人多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

第百八條　事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル者ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス　一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ者ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス　二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節　從犯

第百九條　重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他隨從ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第百十條　身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス　正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ト爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第百十一條　罪ヲ犯サントテ豫リ又ハ其豫備ヲ爲シ第百十二條　罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル者ハ已ニ遂ケタル者ノ一等又ハ二等ヲ減ス

第百十三條　重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス　輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス　逮警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章　親屬例

○刑法第一編○加減順序○數罪但發○正犯○從犯○未遂犯罪○親屬例　十七

第百十四條　此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一祖父母父母夫妻　二子孫及ヒ其配偶者　三兄弟姉妹及ヒ其配偶者　四兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者　五父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者　六父母ノ兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者　七配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者　八配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者　九配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者　十配偶者ノ祖父母外祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子ニ同シ　養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ

## 第二編　公益ニ關スル重罪輕罪

### 第一章　皇室ニ對スル罪

第百十六條　天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第百十七條　天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス　皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第百十八條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス　皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百十九條　皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

### 第二章　國事ニ關スル罪

第百二十條　此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

#### 第一節　內亂ニ關スル罪

第百二十一條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的トシテ內亂ヲ起シタル者ハ死刑ニ處ス　一首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス　二群集ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期徒刑ニ處ス　三兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス　四敎唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ニ年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條　內亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ內亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第百二十三條　政府ヲ顚覆スルノ目的ヲ以テ人ヲ聚ルニ至ラスト雖內亂ト同シク論シ其教唆者及下手者ヲ死刑ニ處ス

第百二十四條　前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

第百二十五條　兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス　內亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第百二十六條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第百二十七條　內亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シ又ハ內亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百二十八條　內亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ內亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

#### 第二節　外患ニ關スル罪

第百二十九條　外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十條　交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若シハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十一條　本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若シハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス　敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若シハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第百三十二條　陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル物ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第百三十三條　外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル物ハ一等又ハ二等ヲ減ス

○刑法第二編○皇室ニ對スル罪○國事ニ關スル罪○外患關スル罪　十九

第百三十三條　囚徒受死刑之宣告者、應即拘禁之、

第百三十四條　死刑應於監獄內執行之、

第百三十五條　死刑之執行、應由檢察官蒞視之、

第百三十六條　死刑之執行、應將罪狀揭示之、

第百三十七條　死刑之執行、應於日出後行之、但經檢察官之請求、或有必要之情形者、不在此限、

第百三十八條　死刑之執行、應通知受刑人之親屬、

第百三十九條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十一條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十二條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十三條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十四條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十五條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十六條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十七條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十八條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百四十九條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十一條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十二條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十三條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十四條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十五條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十六條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十七條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十八條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十九條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十一條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十二條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十三條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十四條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十五條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十六條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十七條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十八條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百六十九條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十一條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十二條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十三條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十四條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十五條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十六條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十七條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十八條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百七十九條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十一條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十二條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十三條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十四條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十五條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十六條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十七條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十八條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百八十九條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十一條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十二條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十三條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十四條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十五條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十六條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十七條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十八條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百九十九條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第二百條　死刑之執行、應於執行後六小時內、將屍體交付其親屬、

第百五十三條前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節　附加刑ノ執行ヲ通ル、罪

第百五十四條　公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十五條　監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第百五十六條　前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第五節　私ニ軍用ノ銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第百五十七條　官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥ヲ製造シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

第百五十八條　前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ屋人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百五十九條　前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未遂ニ終リタル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十條　第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供スル可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス

第六節　往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十二條　道路橋梁河港港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十三條　偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若シハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十四條　電信ノ器械柱木條線ヲ損壞シ又ハ線ヲ切斷シテ電氣ノ通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第百六十五條　濱埠ノ住來ヲ妨害スル爲メ纜道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十六條　船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第百六十七條　前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第百六十八條　第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百六十九條　第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第百七十條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節　人ノ住所ヲ侵ス罪

第百七十一條　晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス　若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ　一門戸牆壁ヲ踰越壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入タル時　二兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帶シテ入リタル時　三衆行ヲ爲シテ入リタル時　四二人以上ニテ入リタル時

第百七十二條　夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス　若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第百七十三條　故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入リタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節　官ノ封印ヲ破棄スル罪

第百七十四條　官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ　若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

○刑法　第二編　○靜謐ヲ害スル罪

第百七十五條　官ノ封印ヲ毀棄シテ物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第百七十六條　看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルヲ知ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節　公務ヲ行フヲ拒ム罪

第百七十七條　陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百七十八條　陸海軍ノ徵兵ニ編入セラルヘキ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ニ囑託シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者亦同シ其囑託ヲ受ケタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七十九條　醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分拆又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第百八十條　傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ檢查シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十一條　傳染病流行ノ際戰醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章　信用ヲ害スル罪

第一節　貨幣ヲ僞造スル罪

第百八十二條　內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ僞造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條　內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ僞造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

君シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條　官許ヲ得ス發行スル銀行ノ紙幣ヲ僞造スル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條　內國通用ノ銅貨ヲ僞造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條　前數條ニ記載シタル貨幣ノ僞造變造ニ供シタル器械ヲ豫備シテ其ヲ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條　貨幣ヲ僞造變造スルノ情ヲ知テ原ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス　若シ僞造ノ器械ヲ造リ又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條　貨幣ヲ僞造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ僞造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條　僞造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ僞造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條　僞造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ僞造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス　其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條　前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條　貨幣ヲ僞造變造シ及ヒ輸入取受シタル時ハ前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス　若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第百九十三條　貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ僞造又ハ變造ヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額二倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス

第二節　官印ヲ僞造スル罪

○刑法　第二編　○信用ヲ害スル罪

第百九十四條　御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽造ノ御璽國璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百九十五條　各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ偽造ノ各官署ノ印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百九十六條　產物商品等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス　書籍什物等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百九十七條　御璽國璽官印記号印章ノ影蹟ヲ監用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス　若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

第百九十八條　官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百九十九條　已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂サル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節　官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條　詔書ヲ偽造シ又ハ增減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス　其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條　官ノ文書ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス　其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條　公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス　若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第二百五條　官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ　其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條　官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ監用シタル者ヲ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百七條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第四節　私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條　他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　若シ他人ノ印影ヲ監用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條　爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若シクハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス　其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條　賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十一條　此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂サル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節　免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條　官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　但官印ヲ偽造シ又ハ監用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條　勳章分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽之所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條　公務ヲ免ル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　醫師嘱託ヲ受ケ其詐偽ノ証書ヲ造リ又ハ可免爲ス疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ嘱託ヲ受ケテ第二百十六條ニ該當スル證書ヲ偽造シタル者ハ一等ヲ加フ

其詐僞ノ証書ヲ遣ヒ又ハ證師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條　免狀鑑札及ビ疾病ノ證書ヲ增減變換シテ行使シタル者ハ亦僞造ノ刑ニ同シ

第六節　僞證ノ罪

第二百十八條　刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　一重罪ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　二輕罪ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　三違警罪ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者ハ一月以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十九條　僞證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレシメタル時ハ僞證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條　被告人ヲ陷害スル爲メ僞證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス　一重罪ニ陷ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　二輕罪ニ陷ラシメタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　三違警罪ニ陷ラシメタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條　僞證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ僞證ノ罪發覺シタル時ハ僞證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前ニ記載シタル僞證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス　其刑期限內ニ於テ僞證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルヿヲ得但減シテ前條僞証ノ刑ヨリ降スヿヲ得ス

第二百二十二條　僞證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス　若シ被告人ヲ死ニ陷ルヽノ目的ヲ以テ僞證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反座ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル者ハ亦同シ

第二百二十三條　民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ僞証ヲ爲シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス證人ニ謝シ又ハ謝セントシテ約束ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百二十四條　鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル僞證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條　賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦僞證ノ例ニ同シ

第二百二十六條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節　度量衡ヲ僞造スル罪

第二百二十七條　度量衡ヲ僞造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ僞造シ又ハ盜用シタル時ハ僞造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條　僞造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シ又ハ販賣ノ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ商賈農工定規ヲ增減シタル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百二十九條　人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節　身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十條　身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條　官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齡職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條　官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若シクハ內外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪

第二百三十三條　公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二



○刑法第二編○信用ヲ害スル罪

第二百五十六條　官吏ヲ誘ヒ又ハ威力ヲ以テ賄賂ヲ強ヒタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　前條ノ犯人治癒ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ヲ以テ重キニ從テ處斷ス

## 第六章　風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條　公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條　風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條　賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條　財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

第二百六十二條　財物ヲ醵集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ類ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條　神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第七章　死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發堀スル罪

第二百六十四條　埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條　墳墓ヲ發堀シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條　此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

## 第八章　商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條　僞計又ハ威力ヲ以テ穀類其他飛人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條　僞計又ハ威力ヲ以テ競賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條　僞計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十條　農工ノ雇人其賃ヲ增サンメ又ハ農工業ノ妨ヲ爲ス目的ヲ以テ同盟シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條　雇主其屋賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ僞計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條　虛僞ノ風說ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第九章　官吏瀆職ノ罪

第二百七十三條　官吏公益ヲ害スル罪

官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條　兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎭撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サヽル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條　官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第二節　官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條　官吏權ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條　人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ現場ニ於テ檢事警察官吏ニ報告ヲ受ケテ逃

○刑法第二編○　死屍ヲ毀棄シ墳墓ヲ發スル罪　卅三

ニ保護ノ處分ヲ爲サル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條　逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條　司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若シハ囚人ヲ出獄セシムル可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條　前二條ニ記載シタル官吏又ハ讓送者囚人ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ囚人死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條　裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十二條　裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條　裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遲延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條　官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條　裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條　裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス　其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ニ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條　裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許セスト雖モ情ニ殉カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ前條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ收受ノ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

## 第三編　身體財產ニ對スル罪

### 第一章　身體ニ對スル罪

#### 第一節　謀殺故殺ノ罪

第二百八十九條　第二百八十九條　官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シ詐ヲ增減變換シ又ハ證案シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條　租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百九十二條　謀殺ノ罪ニ限ル謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百九十三條　毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條　故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條　支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條　重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カレ、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條　人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條　謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

#### 第二節　毆打創傷ノ罪

○刑法第二編○官吏瀆職ノ罪○第三編○身體ニ對スル罪

第二百九十九條　人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百　條　人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若ハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス　其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癈疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條　人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヿ能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス　其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス　疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

第三百二條　犯ノ條ヲ人ヲ毆打創傷シ休業癈篤疾又ハ死ニ致シタル各一等ヲ加フ

第三百三條　重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條　毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條　二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス　若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヿ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス　但激暴者ハ減等ノ限ニ在ラス

第三百六條　二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幇助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條　健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三百八條　人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ處斷ス

第三節　殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條　自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ急ヲ救ヒ防禦ノ爲メニスルノ行爲ニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條　毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヿ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヿヲ得

第三百十一條　本夫其妻ノ姦通ヲ親知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス　但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條　豊間故サシ人ノ住居シタル邸宅ニ入リ若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セシトスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條　前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條　身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムヿヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヿヲ分タス其罪ヲ論セス　但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十五條　左ノ諸件ニ於テ已ムヿヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス　一財產ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時　二盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時　三夜間故サシ人ノ住居シタル邸宅ニ入リ若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條　身體財產ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムヿヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三節　過失殺傷ノ罪

第三百十七條　疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條　過失ニ因テ人ヲ創傷シ癈篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條　過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節　自殺ニ關スル罪

第三百二十條　人ヲ敎唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上

第二百四十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百八十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百五十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百六十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百七十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百八十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百二十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百三十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十一條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十二條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十三條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十四條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十五條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十六條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十七條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十八條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十九條　第二百四十條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ

第三百四十三條　略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬牽連ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條　前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者ヲシテ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

第三百四十五條　二十歲ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節　猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條　十二歲ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歲以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條　十二歲ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條　十二歲以上ノ婦女ヲ强姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス　藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ强姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條　十二歲ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ强姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條　前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條　前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ重キニ從テ處斷ス但强姦ニ因テ癈篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條　十六歲ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條　有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ此罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

第三百五十四條　配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節　誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條　不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル僞證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條　誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條　誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條　惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　二書類書圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條　死者ヲ誹毀シタル者ハ證罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第三百六十條　醫師藥商穩婆又ハ代言人辨護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因テ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條　此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節　祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條　子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス　其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ヲ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條　子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄逮捕告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癈疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條　子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以



○刑法第三編　身體ニ對スル罪

上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條　祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

## 第二章　財產ニ對スル罪

### 第一節　竊盜ノ罪

第三百六十六條　人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百六十七條　水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條　門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若シハ鍵鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入リ竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條　二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條　兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入リ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十一條　自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十三條　田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條　山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十四條　牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十五條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

### 第二節　強盜ノ罪

第三百七十六條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條　祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財產ヲ竊取シタル者ハ此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ弟タラサルヲ以テ論スルノ限ニ在ラス

第三百七十八條　竊盜ヲ以テ論スル者ハ二個每ニ一等ヲ加フ　一二人以上共ニ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十九條　強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個每ニ一等ヲ加フ　一二人以上共ニ犯シタル時

第三百八十條　強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百八十一條　強盜婦女ヲ强姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百八十二條　竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條　藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ滅輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

### 第三節　遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條　遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條　他ノ所有地內ニ於テ埋藏ノ物品ヲ堀得テ隱匿シタル者第三百七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第三百八十七條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

### 第四節　家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條　家資分散ノ際其財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ負債ヲ增加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス　情ヲ知テ虛僞ノ契約ヲ承諾シ若シハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條　家資分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若シハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

### 第五節　詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條　人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ一圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ官私ノ文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シタル者ハ僞造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○刑法第三編○　財產ニ對スル罪

第三百九十一條　幼者ノ知慮浅薄又ハ人ノ精神錯亂シタル者ニ乘シテ其財物若シハ証書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條　物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ僞テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條　他人ノ動產不動產ヲ冒認シテ販賣シ又ハ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

第三百九十四條　前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百九十五條　受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條　自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脫漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條　此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未遂ニ止マリタル者ハ第三百七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節　贓物ニ關スル罪

第三百九十九條　强竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若シハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四　百　條　前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條　詐僞取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若シハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節　放火失火ノ罪

第四百二條　火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條　火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス其人ヲ乘載セサル船舶ヲ燒燬シタル者亦同シ

第四百四條　火ヲ放テ醸屋及ヒ藥草肥料等ヲ貯蓄シ置ク屋舍ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條　火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス　其人ヲ乘載セサル船舶漂車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條　火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條　火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條　放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條　火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條　火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節　決水ノ罪

第四百十一條　堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス　若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條　堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條　他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他衆利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條　過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節　船舶ヲ覆沒スル罪

第四百十五條　衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆沒シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ヲ生シタル時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條　前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆沒シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節　家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條　人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス　因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス



○刑法第二編○財產ニ對スル罪

第四百十八條　人ノ家屋ニ属スル墻壁及ヒ園池ノ装飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄ヲ毀壊シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條　人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條　土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壊シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條　人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條　人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條　前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シ又ハ害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條　人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ニ月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

## 第四編　違警罪

第四百二十五條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一規則ヲ遵守セスシテ火繩其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五煙氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セントスル家屋墻壁ノ修理ヲ爲サヽル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知官署ニ申告セス又ハ他所ニ葬ラス

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ僞證シタル者但被告人僞證ノ罪ノ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ他時ニ參ラシタル者

以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

二氷火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求ヲ受ケテ之ヲ拒ム者

三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

四健康ヲ保證スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サヽル者

六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ繫ク又ハ繫逸セシメタル者

七猛狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九斃死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損又ハ汚瀆シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條　左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十錢以下ノ罰金ニ處ス

○刑法第四編○違警罪

錢以下ノ科料ニ處ス
一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ乘ヤタル者
三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタルモ
五 瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
七 汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
九 醫師醫業事故ナクシテ急病人ノ招ニ應セサル者
十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
十一 假言浮說ヲ爲シテ人ヲ眩惑シタル者
十二 吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
十三 私有地外ヘ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒外ヲ出シタル者
十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ圖場等ヲ毀損シタル者
十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ迂道標ノ損ヲ毀損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以下ノ罰金ニ處ス
一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
二 道路橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
三 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者及ヒ其規則ニ違背シ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
六 輻輳ノ場所ニ於テ竊盜ノ爲メ人ヲ誘導シ又ハ官署ノ警促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ怠リタル者
七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ放畜シタル者
九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ橫タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
五 氷雪壓井等ヲ路上ニ投棄シタル者
六 官署ノ警促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ怠リタル者
七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戲ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヿヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ爲シテ制止ヲ肯セサル者
十二 路町シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家貸家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
十八 通路ヲヤ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

○ 刑法第四編○ 違警罪

第四百三十條　前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從ヲ處斷ス

刑法附則

第一章　主刑執行

第一條　死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第二條　死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條　死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作リ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納入ス可シ

第四條　左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭　孝明天皇祭　紀元節　春季皇靈祭

仁孝天皇祭　神武天皇祭　六月大祓　秋季皇靈祭　神嘗祭　天長節　後桃園天皇祭　光格天皇祭　十二月大祓

第五條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ產後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

第六條　死刑ノ場所ニ埋ム者シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルヲ得

第七條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條　死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齡職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ　刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前　犯罪ノ地　犯人住居ノ地

第九條　徒流ノ囚ヲ發遣スル時ハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ內務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發遣ノ地ニ護送ス可シ

第十條　徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條　流刑ノ囚幽閉中獄內ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十二條　流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ內務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條　徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家族ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許ス可シ但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條　流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

第十五條　流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シ流刑ニ處スル時ハ本刑期限內ト雖モ島地ニ於テ直ニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條　懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條　禁獄輕禁錮ノ囚獄內ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十八條　服役限內更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以內ハ工錢ヲ給與セス

第十九條　囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條　罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ルモ亦同シ

第二章　監視

第二十一條　監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條　監視ニ付ス可キ者ハ縣ノ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル後典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ（明治十五年第四十二号布告改正）

第二十三條　犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條　（明治十五年第四十二号布告削除）

○刑法附則

第二十五條　警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシムヘシ但途中事故アリテ滯留シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ　犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

第二十六條　犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間遵守ス可キ條件ヲ職掌カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條　監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ　一　毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹愼ナルヿヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヿヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヿ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ　二　酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヿヲ許サス　三　事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ　四　擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヿヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

第二十八條　監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨途スルヿアル可シ

第二十九條　警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヿヲ許可シタル時ハ其事由ヲ聘住ノ地ノ警察所ニ通知ス可シ

第三十條　他ノ地方ニ旅行スルヿヲ暇可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定ノ旅券ヲ付與ス可シ　犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ

第三十一條　旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時滯留シタル時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメス又ハ使役ニ供スル住居遠地ニ在テ歸着スル實力ナキ者亦同シ

第三十二條　監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメス又ハ使役ニ供スル住居遠地ニ在テ歸着スル實力ナキ者亦同シ

第三十三條　監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スルノ實功ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條　刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條　罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スヘシ

第三十六條　監視ニ付セラレタル者其規則ヲ違守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヿヲ得ヘシ

第三十七條　假出監ニ付セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

## 第三章　假出獄及ヒ特別監視

第三十八條　假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンヿヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條　假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條　假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ　一　本人ノ屬籍氏名年齡住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日　二　殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事　三　假出獄中ニハ特別監視ニ付ス可キ事　四　假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直ニ其所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ事

第四十一條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條　假出獄ヲ許ス可キ者ハ獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ（明治十五年第四十二号布告改正）

第四十三條　特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條　特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ　一　毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹愼ナルヿヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヿヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヿ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ　二　酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集



○刑法附則

ノ場所ニ參會スルヿヲ許サヽルヿ

三　事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察ニ申請ノ許可ヲ受ケ可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヿヲ許サス

四　住復一日程ニ過クル地ニ旅行スルヿヲ許サス

第四十五條　特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヿアル可シ

第四十六條　假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ　主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條　假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中別房ニ留置ス可シ

第四章　刑事裁判費用

第四十八條　豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條　日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ據リ各地方適宜之ヲ定ム可シ（明治十六年第三十九號布告改正）

日當　五拾錢以下　旅費　一里拾錢以下　止宿料　一宿廿五錢以下　住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給與シ及ヒ呼出ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給與セス

第五十條　證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條　證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給與スルヿアル可シ

第五十二條　解剖舍毒等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條　裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章　賠償處分

第五十四條　贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヿヲ得ス　若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヿヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヿヲ得

第五十五條　贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヿヲ得ス但典物ト雖モ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十六條　贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十七條　贓物已ニ費用シタル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヿヲ得

第五十八條　贓物ノ還給損害ノ賠償其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヿヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第五十九條　人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害ハ其賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲリクル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルヿヲ得ス

第六十條　贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スル者ハ其審判已ニ終ル前ニ於テ之ヲ請求スルヿヲ得

第六十一條　刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ爲スヿヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條　贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヿヲ得

第六十三條　贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヿヲ得

○賭博犯處分規則（明治十七年第一號布告）

賭博犯ハ刑法第二百六拾條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ內行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヨリシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム

賭博犯處分規則

第一條　賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處シ家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シテ其他總テ幇助ヲ爲シタル者亦同シ

但凶器ヲ携帶シ又ハ四隣ニ憚行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

○賭博犯處分規則

二處ヲ其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サズト雖ドモ前項ニ依リテ處分ス

第二條　賭具及ビ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒入ス

第三條　賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ル事ヲ得但シ晝間官邸、其証票ヲ携帯スヘシ

第四條　此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ內務卿ノ許可ヲ得テ施行スル事ヲ得

治罪法目錄

第一編　總則
第二編　刑事裁判所ノ構成及ヒ權限
第一章　通則
第二章　違警罪裁判所
第三章　輕罪裁判所
第四章　控訴裁判所
第五章　重罪裁判所
第六章　大審院
第七章　高等法院
第三編　犯罪ノ搜査起訴及ヒ豫審
第一章　搜査
第一節　告訴及ヒ告發
第二節　現行犯罪
第二章　起訴
第一節　檢察官ノ起訴
第二節　民事原告人ノ起訴
第三章　豫審
第一節　令狀
第二節　密室監禁
第三節　證據
第四節　被告人ノ訊問及ヒ豫置
第五節　檢証及ヒ物件差押
第六節　證人訊問
○治罪法○目錄

第七節　確定
第八節　現行犯ノ逮捕
第九節　保釋
第十節　豫審終結
第四章　豫審上訴
第四編　公判
第一章　通則
第二章　違警罪公判
第三章　輕罪公判
第四章　重罪公判
第五編　大審院ノ職務
第一章　上告
第二章　再審ノ訴
第三章　裁判管轄ヲ定ムルノ訴
第四章　公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴
第六編　裁判執行復權及ヒ特赦
第一章　裁判執行
第二章　復權
第三章　特赦
附則　治罪法廢止



治罪法

第一編　總則

第一章　總則

第一條　公訴ハ犯罪ヲ証明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスル者ニシテ之ヲ行フ

第二條　私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償賠物ノ返還ヲ目的トスル者ニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

第三條　公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ル者ニ非ス又告訴私訴ハ其權ヲ有スル者ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

第四條　私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラス刑事ニ附帶シテ刑事裁判所ニ私訴ヲ爲スヲヲ許サヽル場合ハ此限ニ在ラス

第五條　公訴私訴ノ裁判ハ曾轄裁判所ニ於テ現ニ施行スル法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第六條　刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ於テ公訴私訴並起ル時ハ公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲ス可カラス若シ賠償返還ノ言渡アリタル後刑ノ言渡アリタル時ハ共ニ其効ナカルヘシ

第七條　民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴アルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲヲ得ス　刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲヲ得

第八條　被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルヲヲカル可シ

第九條　公訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一被告人ノ死去　二告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ被害者ノ棄權又ハ私和　三確定裁判　四犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止　五大赦　六期滿免除

第十條　私訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一被害者ノ棄權又ハ私和　二確定裁判　三期滿免除

○治罪法第一編○總則

第十一條　公訴期滿免除ノ期限左ノ如シ　一輕罪ハ三年　二輕罪ハ六月　三重罪ハ十年

第十二條　私訴期滿免除ノ期限ハ被害者無能力ナル時又ハ民事裁判所ニ其訴ヲ爲シ又ハ豫審若シクハ公訴ノ期滿免除ノ期限ト同一ナリトス　公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタル時ハ民法ニ定メタル期滿免除ノ例ニ從フ

第十三條　公訴私訴期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

第十四條　期滿免除ハ刑事裁判所ニ於テ檢察官若シクハ民事原告人ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若シクハ公判ノ手續ニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷スル時ハ此限ニ在ラス　公判ノ手續アリタルニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷スル時モ亦同シ　期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタル時ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期限ヲ起算ス但前後ノ日數ヲ通算シテ第十一條ニ定メタル期限ノ二倍ヲ超過ス可カラス

第十五條　起訴豫審又ハ公判ノ手續其規則ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スル時ハ期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スル時ハ此限ニ在ラス

第十六條　被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若シクハ重キ過失ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルニ對シ損害ノ償ヲ要ムルニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ　民事原告人限豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタル時ハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ　民事原告人又ハ民事原告人ヨリ惡意若シクハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ

第十七條　被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル時モ裁判官檢察官書記又ハ司法警察官ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

第十八條　此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休廳ニ當ル期限ニ關スル者ハ此期限ニ在ラス　一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第十九條　此法律ニ定メタル期限ニハ隣國人里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ人里ニ滿サル者ト雖モ三里以上ナル時亦同シ　島地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シ

第二十一條　訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セサル時ハ書類ノ送達ヲ受ケサル時モ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第二十二條　此法律ニ於テ訴訟關係人ニ書類ヲ送達スルニ付キ別ニ規則アラサル時ハ書記其送達書ヲ作リ書記局所屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム　若シ書類ノ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ在ル時ハ其地ノ裁判所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ

第二十三條　送達書ハ二通ヲ作リ其一通ヲ本人ニ渡ス可シ本人ニ渡スコトヲ得サル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ス可シ　送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其二通ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ　同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スコトヲ得ス若シクハ是等ノ者之ヲ受取ルコトヲ肯セサル時ハ其地ノ戶長ニ渡置キ戶長ハ其書類ニ認印シ速ニ本人ニ送達ス可シ　送達人ハ書類ヲ受取リタル者ノ氏名滯所及ヒ日時ヲ其二通ニ記載ス可シ本條ノ規則ニ背キタル時ハ書類送達ノ効ナカル可シ　送達人ハ之ヲ受取リタル者ノ氏名滯所及ヒ日時ヲ其二通ニ記載ス可シ

於テハ送達ノ證トシテ之ヲ保存ス可シ

第二十四條　休暇ノ日及ヒ日出前日沒後ハ書類ノ送達ヲ爲ス可カラス　此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ効ナカル可シ但本人承諾シテ其送達ヲ受ケタル者ハ此限ニ在ラス

第二十五條　官吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印ヲ爲ス可シ　官吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ官吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除クノ外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ

第二十六條　官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アル時ハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字



○治罪法第一編　總則

體ヲ存シ其數ヲ記載スヘシ此規則ニ背キタル時ハ其變更增減ノ効ナカルヘシ

第二十七條　此法律ニ於テ定メタル豫審又ハ公判ニ付テノ規則ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス　頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサル時ハ其効アリトス

第二十八條　此法律ハ將來頒布スヘキ別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニモ亦之ヲ適用スヘシ但其法律ニ抵觸スル規則ハ此限ニ在ラス　從前頒布シタル別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定タル犯罪ニ付テハ前項ノ例ニ在ラス

第二十九條　此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキ者ニ適用スルヲ得ス

第三十條　此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ從フ

## 第二編　刑事裁判所ノ構成及ヒ權限

### 第一章　通則

第三十一條　通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク

第三十三條　刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ

一　犯罪ヲ搜査ス　二　犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官ニ請求ス　三　裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス　四　裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス

第三十四條　檢察官一名ハ公廷ニ立會フヘシ

第三十五條　裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク

第三十六條　書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書ヲ作リ始末書其他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ルヘシ

第三十七條　書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書ヲ作リ始末書其他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ルヘシ

第三十八條　犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルヿ左ノ如シ

一　違警罪ハ違警罪裁判所　二　輕罪ハ輕罪裁判所　三　重罪及ヒ輕罪又ハ違警罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等ノ裁判所ニ於テ之ヲ管轄ス

第三十九條　左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス　一　同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニヲ數罪ヲ犯シタル時　二　數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタル時　三　自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時

第四十條　同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス　犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第四十一條　數箇ノ裁判所ノ管轄地內ニ於テ同時ニ又ハ繼續シテ一箇ノ罪ヲ犯シタル時ハ其中ニテ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス　數罪俱發ノ場合ニ於テモ亦同シ

第四十二條　犯罪ノ地ニ非サル裁判所ノ管轄地內ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ送致スヘシ

第四十三條　數箇ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス　數罪ノ裁判所ニ於テハ其令狀ヲ發シタル裁判所ニ送致ス可シ

第四十四條　從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス　令狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其犯數名アル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス　高等法院及ヒ陸海軍裁判所ノ管轄ニ付キ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ本條ノ例ニ在ラス

第四十五條　外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處斷ス可キ者ニシテ內地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタル時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス　瞬席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第四十六條　豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラス此規則ニ背キタル時ハ其裁判ニ干預ス可カラス前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ瞬席裁判ニ對スル故障ヲ除ノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可カラス此規則ニ背キタル時ハ其言渡ノ効ナカル可シ

第四十七條　裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄ナリヤ否ヤ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本編ノ事件終審ナル可キ場合ト雖ト通常ノ規則ニ從ヒ檢察官其他訴訟關係人ヨリ上訴スルヿヲ得

## 第四十八條　治罪法第二編　通則

## 第二章　違警罪裁判所

第四十九條　治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス

第五十條　違警罪裁判所ノ職務ハ治安裁判所判事之ヲ行フ　判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ

第五十一條　違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所々在ノ地ノ警部之ヲ行フ

第五十二條　違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ作リ輕罪裁判所檢事ニ差出ス可シ

事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第五十三條　違警罪裁判所書記ノ職務ハ治安裁判所書記之ヲ行フ

## 第三章　輕罪裁判所

第五十四條　始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス　又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ　又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス

第五十五條　輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判所判事一名又ハ數名ニ順次滿一箇年間之ヲ命ス　又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第五十六條　豫審判事ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事一年以上其職務ヲ繼續ス可キヲ命スルヲ得

第五十七條　判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職務ヲ行フ　判事補ハ豫審又ハ勇判ニ豫會ヒ意見ヲ述ルヲ得

第五十八條　輕罪裁判所檢察官ノ職務ハ始審裁判所檢事又ハ其指名シタル檢事補之ヲ行フ

第五十九條　輕罪裁判所書記ノ職務ハ始審裁判所書記之ヲ行フ

第六十條　東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スル權ヲ有ス但東京府長官ハ此限ニ在ラス

付キ檢事ト同一ノ權ヲ有ス

左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ第三編ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査ス可シ

一　警視警部　二　區長郡長　三　治安判事　四　警部ノ在ラサル地ノ戸長

第六十一條　司法警察官檢察官又ハ裁判官又ハ他ノ司法警察官ノ爲メ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ノ嫌疑ヲ受クルヲ得ル事物ヲ集取ス可キノ嘱託ヲ受クルヲ得ル事物ヲ集取ス可キノ嘱託ヲ受クルヲ得

第六十二條　檢事ハ二月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作リ控訴裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

又違警罪裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

## 第四章　控訴裁判所

第六十三條　控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

第六十四條　刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事數名ニ順次滿一箇年間之ヲ命ス　又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第六十五條　刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判事ヲシテ其職務ヲ行ハシム　裁判所長ハ何時ニテモ裁判長ト爲ルヲ得

第六十六條　刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

第六十七條　檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ輕罪裁判所檢事ニ屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得　又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告達スルヲ得ル可シ

第六十八條　檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作リ司法卿ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ　檢事長ハ其管轄地内ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ監督ス

第六十九條　刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ

## 第五章　重罪裁判所

第七十條　重罪裁判所ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ヲ裁判ス

第七十一條　重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク　若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法卿ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廷スルヲ得

第七十二條　重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク

## ○第二編○　違警罪裁判所○　輕罪裁判所○　控訴裁判所

第七十三條　重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ
裁判所裁判長中ニテ之ヲ命ス　二陪席裁判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ノ時ハ裁判所長及ヒ先任ノ裁判事ヲ以テ之ニ充ツ
事中ニテ之ヲ命ス　一裁判長一名但控訴裁判所ニ於テ開ノ時ハ裁判所長ヨリ其裁判所裁判
第七十四條　重罪裁判所檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ
裁判所ニ於テ開ノ時ハ檢事長ヨリ始審裁判所檢事ヲシテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得
第七十五條　重罪裁判所書記ノ職務ハ開廳ス可キ裁判所ノ
第七十六條　控訴裁判所檢事長ハ閉廳ノ後既決事件表ヲ作リ司法卿ニ差出ス可シ　事件表ニハ控訴
裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第六章　大審院

第七十七條　大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス
一上告　二再審ノ訴　三裁判管轄ヲ定ムルノ訴
第七十八條　刑事局ニ於テハ判事五名以上ニ非サレハ裁判ヲ爲ス可カラス
第七十九條　刑事局判事ノ職務ハ司法卿ノ奏請ニ因リ其院判事ニ之ヲ命ス　判事差支アル時ハ民事
局判事授任ノ順序ニ從ヒ其職務ヲ行フ
第八十條　刑事局檢察官ノ職務ハ其院檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ
第八十一條　刑事局書記ノ職務ハ其院書記之ヲ行フ
第八十二條　檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作リ司法卿ニ差出ス可シ　事件
表ニハ院長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第七章　高等法院

第八十三條　高等法院ニ於テハ刑法第二編第一章第二章ニ記載シタル重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ヲ裁判ス　又皇族ノ犯シ
タル重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ヲ裁判ス　又勅任官ノ犯シタル重罪ヲ裁判ス　前二項ニ
記載シタル者ノ正犯及ヒ從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス其院ニ於テ之ヲ裁判ス
第八十四條　高等法院ハ司法卿ヨリ指名シタル檢事之ヲ行フ
第八十五條　高等法院書記ノ職務ハ大審院書記之ヲ行フ
第八十六條　高等法院ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ許サス但左ノ條件ニ於テハ其院ニ上訴スルコトヲ得
一隣席裁判官ノ場合ニ於テ故障　二第四百三十六條ト同一ノ場合ニ於テ哀訴　三第四百三
十九條ト同一ノ場合ニ於テ再審ノ訴
第九十條　被告事件夥多ナル時又ハ再審ノ訴ヲ裁判ス可キ時ハ新ニ職員ヲ命スルコトアルヘシ
第九十一條　高等法院ノ訴訟手續ハ通常ノ規則ニ從フ

第三編　犯罪ノ搜査起訴及ヒ豫審

第一章　搜査

第九十二條　檢察官ハ後ニ記載シタル告訴告發現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪
アリト思料シタル時ハ其證迹及ヒ犯人ヲ搜査シ第百七條以下ノ規則ニ從ヒ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

第一節　告訴及ヒ告發

第九十三條　何人ニ限ラス重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若シクハ被告人所在ノ地ノ豫審
判事檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得　豫審判事檢事ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ　檢事告訴ヲ受ケタル時ハ第百七條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ
司法警察官告訴ヲ受ケタル時ハ速ニ其書類ヲ檢事ニ送致ス可シ　違警罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ違警
罪裁判所檢察官又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得其告訴ヲ受ケタル司法警察官ハ之ヲ違警罪裁判所
檢察官ニ移ス可シ
第九十四條　告訴人ハ成ル可ク其証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立ツ可シ　又告訴ハ第百十條
以下ノ規則ニ從ヒ民事原告人ト爲ルコトヲ得
第九十五條　告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ　又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲
ス可シ

スヿヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作リ告訴人ニ之ヲ讀聞カセ其ニ署名捺印スル可シ若シ告訴人署名捺印スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第九十六條　官吏其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪アルヿヲ認知シ又ハ重罪輕罪アリト思料シタル時ハ遲滯ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ　告發ハ官吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

第九十七條　何人ニ限ラス重罪輕罪アルヿヲ認知シ又ハ重罪輕罪アリト思料シタル時ハ第九十四條第九十五條ノ規則ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ告發スルヿヲ得

第九十八條　告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スヿヲ得但第九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス　無能力者ノ告訴ハ法律ニ定メタル代人之ヲ爲スモ其効アリトス

第九十九條　告訴告發ハ其願下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルヿヲ得此場合ト雖ニ第十六條ノ規則ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルヿアル可シ

## 第二節　現行犯罪

第百條　現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

第百一條　重罪輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

一犯人ト認テ一人又ハ數人ニ追呼セラル時

二兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帶シタル時

三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢証スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタル時

第百二條　司法警察官及ヒ巡査其職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪ノ現行犯アルヿヲ知リタル時ハ爵狀又ハ命令ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ　逮警罪ノ現行犯アルヿヲ知リタル時ハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ之ヲ逮警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ逮警罪裁判所ニ引致スルヿヲ得

第百三條　巡査被告人ヲ逮捕シタル時ハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ　司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

第百四條　司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル時ハ假ニ被告人ノ訊問及ヒ檢証處分ヲ爲ス可シ

第百五條　何人ニ限ラス重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルヿヲ得

第百六條　前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルヿヲ得サル時ハ自己ノ氏名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡査ニ引渡シタル時ハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ　被告人又ハ巡査逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ其ニ官署ニ至ルヿヲ求ルヿヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムヿヲ得ス

## 第二章　起訴

### 第一節　檢察官ノ起訴

第百七條　檢事犯罪ノ搜査ヲ終リタル時ハ左ノ手續ヲ爲ス可シ　一重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ　二輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ輕罪裁判所ニ其訴ヲ爲ス可シ　三違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致ス可シ　四被告人ノ身分犯罪ノ種類又ハ場所ニ因リ其管轄裁判所檢察官ニ送致ス可キヿヲ知ラサル者ト思料シタル時ハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

第百八條　前條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ル時ハ檢事ヨリ其處分ヲ被申者ニ通知ス可シ

第百九條　檢事豫審ヲ求ムル時ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ原被ノ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ

### 第二節　民事原告人ノ起訴

第百十條　重罪輕罪ノ被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲サントスル時ハ告訴ト共ニ之ヲ申立ツ可シ　豫審判事ヲ爲シタル後其旨ヲ豫審判事直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立ヲ受ケタル時ハ檢察官ノ起訴ナシト雖モ公訴私訴ヲ併セテ受理シタル者トス　豫審判事ハ何レノ場合ニ於テモ直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

第百十一條　被害者ハ公訴ノ本業ニ付キ始審終審ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ私訴ヲ爲シ若シハ既ニ爲シタル私訴ヲ取下ルヿヲ得

要スル所ヲ變更スルヲ得　又私訴ノ關下ヲ爲シタル後更ニ其申立ヲ爲シ若クハ其要スル所ヲ變更スルヲ得

第百十二條　被害者ハ代人ニ委任シテ私訴ヲ爲サシムル時ハ法律ニ定メタル代人之ヲ爲スヲ可シ

## 第三章　豫審

第百十三條　現行ノ重罪輕罪ヲ除クノ外豫審判事ハ前章ニ定メタル規則ニ從ヒ檢事又ハ民事原告人ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルヲ得ス此規則ニ背キタル時ハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ効ナキモノトス

第百十四條　豫審判事ハ前章ニ定メタル規則ニ從ヒ檢事又ハ民事原告人ノ出シタル訊問スルヲ得若シ引續キ取調ヲ爲ス可キ者ト思料シタル時ハ其事件ヲ檢事ニ送致ス可シ

第百十五條　豫審判事ハ告訴告發事件ノ急速ヲ要スル時ハ直ニ被告人ニ對シ拘引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後拘留狀ヲ發スルヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ檢事ニ通知シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致スヘシ　若シ其通知ヲ爲シタル後四十八時ヲ過クルモ檢事ヨリ其送致ヲ受ケサル時ハ被告人ヲ放免ス可シ但後日起訴ヲ爲スノ妨礙ト爲ルヲ得ス

第百十六條　被告人所在ノ地ノ豫審判事直ニ告訴告發ヲ受ケ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケ被告事件急速ヲ要スル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ被告人ノ訊問又ハ檢証處分ヲ爲シタル後證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送致ス可シ

拘留狀ヲ以テ被告人ヲ送致スルヲ得

第百十七條　檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟書類ヲ檢閲スルヲ得但二十四時內ニ之ヲ還付ス可シ　又必要ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スヲ得

### 第一節　令狀

第百十八條　豫審判事ハ檢事又ハ民事原告人ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタル時ハ被告人ニ出廷ヲ命シ若シ召喚狀ヲ發ス可キ被告人出廷ノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

召喚狀ニ因リ出廷シタル被告人ハ訊問ス可シ又遲クトモ出廷ノ日ヲ過クルヲ得ス

第百十九條　豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地內ニ住セサル時ハ訊問ス可キ條件ヲ明示シ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第百二十條　豫審判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルヲ得　一被告人定リタル住所アラサル時　二被告人罪証ヲ湮滅シ又ハ逃亡スルノ恐アル時　三被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ乃ホ其目的ヲ遂ケントスルノ恐アル時

第百二十一條　勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時內ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間ヲ經過スル時ハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

第百二十二條　勾引狀ヲ發シタル前被告人既ニ豫審判事ノ管轄地外ニ在ル時ハ被告人ヨリ其所在ノ地ノ豫審判事ノ取調ヲ求ムルヲ得其求ヲ受ケタル豫審判事ハ被告人ヲ勾留シ速ニ拘引狀ヲ發シタル豫審判事ニ其旨ヲ通知ス可シ

第百二十三條　勾引狀ヲ發シタル豫審判事ハ被告人ヲ勾留シタル豫審判事ニ訊問ノ囑託ヲ爲スヲ得

第百二十四條　前條ノ場合ニ於テ勾引狀ヲ發シタル豫審判事ハ其事件ヲ檢事ニ送致ス可キヲ請求ス可シ

前條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託シ又ハ前ニ發シタル拘引狀ヲ以テ被告人ヲ送致ス可キヲ請求ス可シ

其囑託ヲ受ケタル豫審判事ハ被告人ヲ訊問シタル後其旨ヲ勾引狀ヲ發シタル豫審判事ニ通知シ其意見ヲ聽キ被告人ヲ放免シ又ハ前ニ發シタル勾引狀ヲ以テ管轄豫審判事ニ送致ス可キヲ爲ス可シ

第百二十五條　豫審判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルヲ証明シタル時ハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルヲ得ス

其所在ノ地ノ豫審判事ニ訊問ノ事ヲ囑託ス可シ

第百二十六條　勾留狀ハ被告人逃亡シ又ハ第百二十三條ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルヲ得ス

第百二十七條　豫審判事ハ勾留狀ヲ執行シタル時ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若シハ第二百十九條ノ規則ニ從ヒ被告人ヲ責付スルヲ得ス

檢事ハ被告人ヲ責付スル日ヨリ十日ヲ過クル時ハ之ヲ勾留ス

○治罪法第三編○豫審

可キヲ豫審判事ニ求ムルヲ得

第百二十八條　収監狀ハ既ニ取掛リタル豫審ノ手續ヲ檢事ニ通知シ且其意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ發スルヲ得ス

第百二十九條　収監狀ニハ左ノ條件ヲ記載スヘシ　一被告事件ノ概要　二其罪ヲ罰スヘキ法律ノ正條　三檢察官ノ意見ヲ聽キタルヿ

第百三十條　總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業住所ヲ記載スヘシ但召喚狀ヲ除クノ外其氏名分明ナラサル時ハ容貌體格等ヲ明示スヘシ　又令狀ニ其發スル年月日時ヲ記載シ豫審判事及ヒ書記署名捺印スヘシ　勾引狀勾留狀収監狀ハ巡查ナルトキハ之ヲ執行スル者ニ於テ之ヲ送達セシム

第百三十一條　召喚狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ書記局所屬ノ使丁シクハ被告人又ハ其住所ニ之ヲ送

第百三十二條　勾引狀勾留狀収監狀ハ日本全國ニ於テ之ヲ執行スヘシ　但時宜ニ因リ正本數通ヲ作リ巡查數人ニ分付スルヿアル可シ　前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付スヘシ此場合ニ於テハ第二十三條第二項第四項ノ規則ニ從フヘシ

第百三十三條　令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ被告人其家宅若シクハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタル時ハ其地ノ戸長又其差支アル時ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ捜索スヘシ　巡查ハ被告人ヲ發見シタルトキハ之ヲ執行スヘシ但時宜ニ因リ正本數通ヲ作リ巡查數人ニ分付スルヿヲ得

第百三十四條　豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタリト知リ又ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スル時ハ巡查ニ令狀ヲ帶行セシメ之ヲ執行ヲ求ムルヿヲ得　巡查ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ムルヿヲ得

第百三十五條　豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルヿ能ハサル時ハ各控訴裁判所檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲スヘキヿヲ請求スルヿヲ得　請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事シクハ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシムル可シ

第百三十六條　陸海軍在營ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタル時ハ所屬長官ニ令狀ヲ示スヘシ長官ハ已ムヿヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシムル可シ其行軍ノ際亦同シ

第百三十七條　勾留狀又ハ収監狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監倉ニ引致スルヿヲ得　何レノ場合ニ於テモ監倉長ハ令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ニ之ヲ執行シタル證書ヲ渡スヘシ

第百三十八條　令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ之ヲ執行シタル證書ヲ添ヘ令狀ノ正本ニ記載スヘシ

巡查ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ書記局ニ差出シ書記ハ其受取證書ヲ渡スヘシ

第百三十九條　勾留狀又ハ収監狀ヲ受ケタル被告人既ニ監倉若シクハ獄舍ニ在ル時ハ書記ヨリ之ヲ本人ニ送達シ其旨ヲ正本及ヒ謄本ニ記載スヘシ

第百四十條　密室監禁ノ場合ヲ除クノ外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ代言人ニ接見スルヿヲ得　書翰書籍其他ノ書類ハ豫審判事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレハ被告人ト外人トノ之ヲ授受スルヿヲ得

第百四十一條　豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非スト思料シタル時ハ豫審中何時ニテモ勾留狀又ハ収監狀ヲ取消スヘシ但収監狀ヲ取消ス時ハ豫メ檢察官ノ意見ヲ聽クヘシ

第百四十二條　監倉ニハ刑法治罪法ヲ備置キ被告人ノ請求ニ從ヒ之ヲ貸與スヘシ

第二節　密室監禁

第百四十三條　豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留狀若シクハ収監狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

第百四十四條　密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類貨幣其他ノ物品ヲ授受スルヿヲ許サス　食物飲料藥餌其他監倉ヨリ給スヘキ物品ト雖モ監倉長ノ特ニ指名シタル者ヨリテ之ヲ給與セシム

第百四十五條　密室監禁ハ十日ヲ超過スヘカラス但十日毎ニ言渡ヲ更改スルヲ得　言渡ヲ更改スルノ時ハ其事由ヲ載判所長ニ報告スヘシ　豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問シ通常ノ親則ニ從ヒ調書ヲ作ルヘシ

○治罪法第三編○　豫審

第百四十六條　豫審判事ハ被告事件ノ攻撃ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルヲ得ル　被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ憑憑ハ裁判官ノ判定ニ任ス

第百四十七條　豫審判事ハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリト認ムル証據憑憑ヲ集取ス可シ

第百四十八條　豫審判事臨檢家宅捜索物件差押又ハ被告人証人ノ訊問ヲ爲スニハ書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作リ豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ

但裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ル能ハサル時ハ立會人二名アルヲ要ス但監倉ニ就テ被告人ヲ訊問スル時ハ其監倉ノ官吏一名ヲシテ調書ヲ作リ之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

第四節　被告人ノ訊問及ヒ對質

第百四十九條　豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢証ヲ爲シ又ハ証人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スル時ハ此限ニ在ラス

第百五十條　豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ白狀セシムルカ爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用フ可カラス

第百五十一條　書記ハ訊問及ヒ陳述ヲ錄取シ被告人ニ之ヲ讀聞カス可シ

書記ハ本條ノ式ヲ履行シタルコトヲ記載シ豫審判事ハ其ニ署名捺印スルコトヲ得

逃ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印ス可キニ其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ摸様ヲ証スル

第百五十二條　被告人ハ陳述ヲ錄取シタル後ニ於テ其陳述ニ付キ變更增減ス可キコトヲ申立ツルコトヲ得

訊問及ヒ陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印ス可シ

第百五十三條　被告人ハ陳述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

第百五十四條　豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコト人證ナキコトヲ爲メ必要ナリトスル時ハ被告人ト他ノ者ト對質セシムルコトヲ得

第百五十五條　書記ハ對質人ノ陳述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第百五十一條第百五十三條ノ規則ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第百五十六條　被告人又ハ對質人聾ナル時ハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナル時ハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ盲者聾者文字ヲ知ラサル者ハ通事ヲ命ス可シ　被告人又ハ對質人國語ニ通セサル時亦同シ

第百五十七條　通事ハ正實ニ通譯ス可キノ宣誓ヲ爲ス可シ　書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ　第百九十二條第百九十三條第二百條ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第五節　檢証及ヒ物件差押

第百五十八條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ重罪輕罪ノ犯所ニ臨ミ檢証ヲ爲スヘシ

又檢事ノ請求アリタル時ハ如何ナル場合ト雖モ臨檢ス可シ

第百五十九條　豫審判事ハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告人ノ人違ナキヤヲ証明スキ摸様ニ付キ調書ヲ作ル可シ　又被告人ノ利益ト爲ル可キ摸様ヲモ記載ス可シ

第百六十條　豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件其出所及ヒ摸様ニ因リ被告人ノ人違ナキヲ又ハ犯罪ノ摸様ヲ知ルニ足ル可シト思料シタル時ハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ逃走スルハ書記之ヲ擔任ス可シ

第百六十一條　豫審判事ハ臨檢家宅捜索物件差押ニ付キ其日ニ盛分ヲ終ラサル時ハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置ク可シ

第百六十二條　豫審判事ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ証明ス可キ物件ヲ藏匿スルノ疑アル者ノ住所ニ臨檢スルコトヲ得　被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住所ニ在ラサル時ハ戸長ノ立會アルヲ要ス　第百二十三條第三項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第百六十三條　被告人ノ臨檢家宅捜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得　若シ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ自ラ立會フコトヲ得ス但豫審判事本人ノ立會ヲ必要トスル時ハ此限ニ在ラス　民事原告人及ヒ其代人ハ前ニ記載シタル處分ニ立會フコトヲ得但豫審判事ハ其立會ノ爲メ豫審ヲ遲延ス可カラス

第百六十四條　家宅捜索ノ場合ニ於テ豫審判事ハ第百六十條ノ規則ニ從ヒ物件ヲ差押フ可シ　物件ヲ差押ヘタル時ハ其目錄ノ謄本ヲ立會人ニ渡ス可シ

第百六十五條　豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ

歸解ヲ爲サシムヿヲ得

第百六十六條　豫審判事ハ被告人ニ對シ其訊問及ヒ陳述ヲ聽クヿヲ必要ナリトスル時ハ書記ノ立會ヲ命シ其訊問及ヒ陳述ヲ記載セシムヘシ

豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ聽クヿヲ必要ナリトスル時ハ書記ノ立會ヲ依リ各別ニ之ヲ訊問スヘシ　第百七十條ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第百六十七條　豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニモ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルヿヲ禁スルヿヲ得　若シ其禁ヲ犯ス者アル時ハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルヿヲ得

第百六十八條　豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢家宅捜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルヿヲ得

第百六十九條　豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審ニ關係アル者ニ屬シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スルヿヲ得但受取證書ヲ渡スヘシ　前項ノ書類物件不用ニ屬シタル時ハ其官署又ハ會社ニ還付スヘシ

## 第六節　證人訊問

第百七十條　豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシテ指名シタル者ヲ呼出スヘシ原告證人被告證人ノ員數夥多ナル時ハ指名ノ順序ニ從ヒ又ハ最モ事實ヲ知ル可シト思料シタル者輕罪事件ニ付テハ各五名重罪事件ニ付テハ各十名ヲ限リ先ツ之ヲ呼出スヘシ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ此限ニ在ラス　又原被ノ指名セサル者ト雖モ豫審判事ノ職權ヲ以テ証人トシテ之ヲ呼出スヿヲ得

第百七十一條　證人ハ豫審判事ノ名ヲ以テ之ヲ呼出スヘシ但其呼出狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ之ヲ送達スヘシ　若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ輕罪裁判所書記ニ送達ノ事ヲ囑託スヘシ

第百七十二條　豫審判事ハ證人裁判所々在ノ地ニ住セサル時ハ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヿヲ得　若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヿヲ得本條ノ場合ニ於テ呼出狀ハ囑託ヲ受タル判事ノ名ヲ以テ其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達スヘシ

第百七十三條　呼出狀ニハ證人ノ氏名住所及ヒ職業ヲ記載スヘシ　又出頭ノ日時場所及ヒ呼出ニ應セサル時ハ過怠金ヲ言渡ス可シ旨ヲ記載スヘシ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アルヘシ

第百七十四條　證人疾病公務其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルヿヲ證明シタル時ハ豫審判事ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スヘシ

第百七十五條　證人ト爲ルヘキ者陸海軍在營ノ軍人軍屬ナル時ハ其所屬長官ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達スヘシ其長官ハ即時ニ出廷セシムヘキヿヲ認可シ又ハ職務上已ムヿヲ得サル差支アル時ハ其事由ヲ付シテ出廷ノ遲期ヲ豫審判事ニ請求スヘシ

第百七十六條　豫審判事ハ前二條ニ定メタル送支ノ場合ヲ除クノ外證人呼出ニ應セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘシ但其言渡ニ對シテハ故障及控訴ヲ許サス豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達スヘシ又ハ直ニ勾引狀ヲ發スルヿヲ得但其費用ハ證人ヲシテ之ヲ擔當セシムヘキヿハ二倍ノ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルヿアルヘシ

第百七十七條　豫審判事ハ證人初度又ハ再度ノ呼出狀ヲ受ケサルヿ其呼出狀第百七十三條ノ規則ニ背キタルヿ又ハ豫知シ難キ正當ノ事故アリテ出廷スル能ハサルヿヲ證明シタル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金ノ言渡ヲ取消スヘシ

第百七十八條　證人呼出狀ニ因リ出廷シタル時ハ其呼出狀ニ其人違ナキヿヲ證明スヘシ

第百七十九條　豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名年齢職業住所及ヒ第百八十一條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フヘシ

第百八十條　豫審判事ハ證人ニシテ受權長官ノ免ヲ得タル正當ノ事由アリト認メタル者ニ對シ其氏名年齢職業住所及ヒ第百八十一條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フヘシ

豫審判事ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシムヘシ但宣誓書ハ訴訟書類ニ添綴シ置クヘシ

第百八十一條　左ニ記載シタル者ハ證人トシテ訊問サス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クヿヲ得

一　民事原告人　二　民事原告人及ヒ被告人ノ親屬　三　民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ保等ノ

者ノ後見ヲ受ケル者　四民事原告人及ヒ被告人ノ屬人

第百八十二條　左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ　一十六歳未滿ノ幼者　二知覺精神ノ不充分ナル者　三精神喪失ノ常況ニ在ル者　四公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者　五重罪事件ニ付キ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケ又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者　六現ニ陪逃ヲ爲ス可キ事件ニ付キ嘗テ訴ヲ受ケ其証憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

第百八十三條　證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡スヘシ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス　醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人公證人等ノ如キ神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ付キ委託ヲ受ケタル者ハ前項ノ例ニ在ラス

第百八十四條　證人ハ他ノ証人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルヲ得

第百八十五條　豫審判事ハ證人ノ陳述ヲ肯セサル時ハ重罪輕罪ノ犯所又ハ他ノ場所ニ同行スルヲ得　若シ證人同行スルヲ肯セサル時ハ第百七十六條ノ規則ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ

第百八十六條　第百五十六條第百五十七條ノ規則ハ証人ニ之ヲ準用ス

第百八十七條　皇族又ハ勅任官証人ナル時ハ豫審判事書記ト共ニ其所在ニ於テ陳述ヲ聽ク可シ

第百八十八條　書記ハ証人ノ陳述ニ付キ各別ニ調書ヲ作ル可シ　其調書ニハ証人宣誓ヲ爲シタルヤ又ハ爲サヽルヤノ事由ヲ記載ス可シ

第百八十九條　豫審判事ハ証人ニ其陳述ノ變更增減セントヲ請求スルヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ　証人ハ其陳述ヲ變更增減セントヲ得書記ハ其請求アリタルヤ及ヒ變更增減ノ條件ヲ調書ニ記載ス可シ若シ証人署名捺印スルヤ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第百九十條　証人ハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費日當ヲ要スルヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ　証人ハ其陳述ヲ變更增減セントヲ請求ス

## 第八節　現行犯ノ豫審

第二百一條　豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スル時ハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得　豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ合ニ充分ナリト爲スコトヲ得

第二百二條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シ又ハ其他此章ニ定メタル規則ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得　雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ラス又ハ檢事ノ起訴ナキトキト雖モ豫審判事ハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致スヘキ旨ヲ記載スヘシ

第二百三條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載スヘシ　豫審判事ハ速ニ之ヲ檢事ニ送致スヘシ　雖モ通常ノ規則ニ從ヒ之ヲ終結スヘシ

第二百四條　前條ノ場合ニ於テ檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ被告人ト共ニ速ニ之ヲ檢事ニ送致スヘシ

第二百五條　第二百三條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但令狀ヲ發スルコトヲ得ス

第二百六條　檢事被告人ヲ受取リタル時ハ二十四時內ニ之ヲ訊問シ調書ヲ作リ勾留狀ヲ發スルト否トヲ問ハス一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致スヘシ此場合ニ於テハ檢事ノ發シタル勾留狀ヲ解キタル時ハ直チニ被告人ヲ放免スヘシ

第二百七條　豫審判事ハ二十四時內ニ被告人ヲ訊問スヘシ此場合ニ於テハ檢事ノ發シタル勾留狀ヲ解キタル手續ニ付キ更ニ其取調ヲ爲スコトヲ得但檢事又ハ司法警察官ノ作リタル調書ハ之ヲ採證書類ニ添置シ勾留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス被告人ヲ訊問シタル後豫審ヲ求ムルニ及ハスト雖モ豫審判事ハ直チニ輕罪裁判所ニ呼出スコトヲ得

## 第九節　保釋

第二百十條　豫審判事ハ豫審中勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷スヘキノ誓書ヲ差出サシメ保釋ヲ許スコトヲ得　被告人無能力ナル時ハ親屬又ハ代人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得

第二百十一條　前條ノ誓書ハ書記局ニ差出スヘシ

第二百十二條　保釋ヲ許スニハ金圓ヲ以テ被告人ノ出廷ヲ保證セシムヘシ但豫審判事其金額ヲ定メ保釋ヲ許スノ言渡ニ記載スヘシ

第二百十三條　保證ヲ爲スニハ被告人又ハ其他ノ者ヨリ保證金若シクハ貯金預所又ハ銀行ノ預證書ヲ書記局ニ差出スヘシ且充分ナル資力アル者ヨリ金額ニ充シ可キ保證金ヲ差出スコトヲ得

第二百十四條　保釋中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其報知ヲ爲スヘシ

第二百十五條　保證金ヲ沒入スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審判事其言渡ヲ爲スヘシ

第二百十六條　保證ニ係ル時ハ民事ノ規則ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ　又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スヘシ

第二百十七條　豫審判事保證金ヲ沒入シタル時ハ保釋ノ言渡ヲ取消スヘシ　豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消スコトヲ必要トスル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡又ハ罰金ニ該ル輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル後免訴ノ言渡ヲ爲シタル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ前ニ沒入シタル金額ヲ還付スヘシ

第二百十八條　豫審判事免訴ノ言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ保證金ヲ還付スヘシ

第二百十九條　豫審判事ハ保釋ノ言渡ヲ取消シタル時ハ保證金ヲ還付スヘシ

第二百十九條　豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコトヲ得

第十節　豫審結終

○治罪法第二編○豫審

第八節　現行犯ノ豫審

第二百一條　豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スル時ハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得　豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ合狀ヲ發シ其他此章ニ定メタル規則ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二百二條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタル者トス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載スヘシ

第二百三條　檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルコトヲ知リタル時ハ豫審判事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キ者ニ非サルノ意見アリト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ

第二百四條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致ス可シ

第二百五條　第二百三條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但合狀ヲ發スルコトヲ得ス　司法警察官ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ被告人ト共ニ速ニ之ヲ檢事ニ送致ス可シ

第二百六條　檢事被告人ヲ受取リタル時ハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ調書ヲ作リ勾留狀ヲ發スルト否トヲ問ハス一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ　若シ起訴ヲ爲ス可カラサル者ト認メタル時ハ直チニ被告人ヲ放免ス可シ

第二百七條　豫審判事ハ二十四時内ニ被告人ヲ訊問スヘシ此場合ニ於テハ檢事ノ發シタル勾留狀ヲ解キ之ヲ存スルコトヲ得

第二百八條　豫審判事ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲シタル手續ニ付キ更ニ其取調ヲ爲スコトヲ得但檢事又ハ司法警察官ノ作リタル調書ハ之ヲ訴訟書類ニ添置ク可シ

第二百九條　檢事ハ輕罪ノ現行犯ニ係ル場合ニ於テ勾留狀ヲ發シタル後豫審ヲ求メサルニ及ヘハ直チニ輕罪裁判所ニ呼出スコトヲ得

第九節　保釋

第二百十條　豫審判事ハ豫審中勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷ス可キノ誓書ヲ差出サシメ保釋ヲ許スコトヲ得

屬又ハ代人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得　保釋中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前

第二百十一條　前條ノ誓書ハ書記局ニ差出ス可シ

ニ其報知ヲ爲ス可シ

第二百十二條　保釋ヲ許スニハ金圓ヲ以テ被告人ノ出廷ヲ保證セシムル可シ但豫審判事其金額ヲ定メ保釋ヲ許スノ言渡ヲ爲ス時ニ記載ス可シ

第二百十三條　保證金若シハ貯金預所又ハ銀行ノ預證書ヲ書記局ニ差出ス可シ

第二百十四條　保證ヲ爲スニハ被告人又ハ其他ノ者ヨリ保證金ヲ出廷セサル時ハ保證金ノ全部又ハ幾分ヲ沒入ス可シ

第二百十五條　保證金ヲ沒入スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審判事其言渡ヲ爲ス可シ　若シ他人ノ保證ニ係ル時ハ民事ノ規則ニ從ヒ之ヲ徵收ス可シ

第二百十六條　豫審判事保證金ヲ沒入シタル時ハ保釋ノ言渡ヲ取消ス可シ　又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スニ必要ナリトスル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

第二百十七條　豫審判事保證金ヲ沒入シタル後免除ノ言渡ヲ爲シタル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ前ニ沒入シタル金額ヲ還付ス可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ檢事ノ言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ取消シタル時ハ保證金ヲ還付ス可シ

第二百十八條　豫審判事免訴ノ言渡違警罪裁判所ニ移スノ言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ保釋ノ言渡ヲ取消シタル時ハ保證金ヲ還付ス可シ

第二百十九條　豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコトヲ得

第十節　豫審結終

○治罪法第二編○豫審

第二百二十條　豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非スト思料シタル時ハ豫審終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムルカ爲メ一切ノ訴訟書類ヲ送致スヘシ　檢事ハ訴訟書類ニ意見ヲ付シ三日內ニ之ヲ還付スヘシ

第二百二十一條　檢事ハ豫審充分ナラスト思料シタル時ハ其條件ニ付キ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得若シ豫審判事其請求ヲ肯ンセサル時ハ檢事訴訟書類ニ意見ヲ付シ二十四時內ニ之ヲ還付スヘシ

第二百二十二條　豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後ニ記載シタル言渡ヲ以テ豫審ヲ終結スヘシ

第二百二十三條　豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ認メタル時ハ其旨ヲ言渡スヘシ若シ勾留ヲ要スル者ト認メタル時ハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付スヘシ

第二百二十四條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一犯罪ノ證憑充分ナラサル時

二被告事件罪ト爲ラサル時

三公訴期滿免除

四確定裁判ヲ經タル時

五大赦アリタル時

本條ノ場合ニ於テ被害者ハ民事裁判所ニ非サレハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十五條　被告事件邏警罪ナリト思料シタル時ハ邏警罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スヘシ且被告人ヲ留ヲ受ケタル時ハ釋放ノ言渡ヲ爲スヘシ

第二百二十六條　被告事件輕罪ナリト思料シタル時ハ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スヘシ若シ保釋ヲ勾留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時ハ釋放ノ言渡ヲ爲スヘシ

ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時ハ保釋ヲ許シ責付ヲ爲スヘシ　被告人

ル時ハ令狀ヲ發スルコトヲ得　若シ被告人未タ勾留ヲ受ケサル時ハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スヘシ若シ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲シタル時ハ其言渡ヲ取消スヘシ　禁錮

第二百二十七條　被告事件重罪ナリト思料シタル時ハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スヘシ若シ保釋ヲ

事長ノ指揮アルマテ豫審ヲ爲シタル裁判所ノ監倉ニ被告人ヲ留置スヘキコトヲ記載スヘシ

第二百二十八條　豫審終結ノ言渡ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付スヘシ　管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲ス

ヲ爲ス時ハ其原由ヲ明示スヘシ　若シ被告人ヲ勾留スヘキ時ハ其原由ヲ明示スヘシ　免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件罪ト爲ラサルカ又ハ犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ其旨ヲ明示スヘシ

第二百二十九條　豫審終結ノ言渡ハ檢事及ヒ被告人ニ送達スヘシ　但被告人ニ送達スルコトヲ得ス

第二百三十條　豫審終結ノ言渡ニハ第二百四十六條以下ノ規則ニ從ヒ其言渡ニ對シ故障ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條　被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ル場合ニ於テ重罪裁判所又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ其旨ヲ言渡書ニ記載スヘシ但被告人ハ現ニ勾留ヲ受ケルニ非サレハ其言渡ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十二條　前條ノ場合ニ於テ檢事又ハ民事原告人ハ假ニ被告人ノ財產ヲ差押フルコトヲ得

判所ニ請求スルヲ得

第二百三十三條　豫審終結ノ言渡ヲ爲シタル時ハ豫審判事ヨリ速ニ其旨ヲ裁判所長ニ報告スヘシ又十五日毎ニ未決ノ豫審事件ニ付キ簡畧ナル報告書ヲ差出スヘシ

## 第四章　豫審上訴

第二百三十四條　左ノ場合ニ於テハ檢事又ハ被告人ヨリ豫審終結ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スコトヲ得　一管轄違ノ申立ヲ棄却シタル時　二法律ニ背キ令狀ヲ發シ又ハ之ヲ發セサル時　三法律ニ背キ保釋責付ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サヽル時　四越權ノ處分アル時　民事原告人ハ私訴ニ付キ第四ノ場合ニ故障ヲ爲スコトヲ得

第二百三十五條　故障ヲ爲サントスル者ハ其裁判所ノ書記局ニ趣意書ヲ差出スヘシ　故障アリタル時ハ書記其趣意書ノ謄本ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ三日內ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得　故障ニ付テハ豫審處分ノ執行ヲ停止セス但保釋責付ヲ爲シタルニ付キ檢事ヨリ故障アリタル時ハ其執行ヲ停止スヘシ

第二百三十六條　故障ハ其裁判所ノ會議局ニ於テ判事三名以上ニテ趣意書答辨書其他訴訟書類及ヒ檢事ノ意見書ニ依リ判決スヘシ　會議局ノ言渡ハ速ニ之ヲ執行ス但其言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡

アリタル後上告ヲ爲スコトヲ得

第二百三十七條　左ノ場合ニ於テハ檢事被告人又ハ民事原告人ヨリ豫審終結ニ至ルマテ豫審判事ヲ忌避スルコトヲ得

一豫審判事又ハ其配偶者ト被告人又ハ民事原告人又ハ其配偶者ト親屬ナル時

二豫審判事被告人又ハ民事原告人ノ後見人ナル時

三豫審判事又ハ其配偶者ニ於テ民事原告人被告人又ハ是等ノ者ノ親屬ヨリ賄賂ニ非スト雖モ贈物ヲ收受シ若クハ聽許シタル時

第二百三十八條　忌避ノ申立ハ豫審判事ニ之ヲ爲スヲ可シ但其申立ヲ爲スニハ趣意書ヲ豫審判事ニ送致シ豫審判事ハ其送致ヲ受ケタルヨリ二十四時內ニ其申立ヲ認可シ又ハ棄却スルコトヲ趣意書ノ紙尾ニ記載シ一通ヲ書記局ニ滯置シ一通ヲ本人ニ送達スヘシ

第二百三十九條　豫審判事忌避ノ申立ヲ棄却シタル時ハ其申立人ヨリ故障ヲ爲スコトヲ得　會議局ニ於テ忌避又ハ回避ノ申立ヲ認可シタル時ハ其判決ヲ爲スヘシ

第二百四十條　豫審判事ハ忌避ノ申立アリタル時又ハ其申立ヲ棄却シタル時ハ其送致ヲ受ケタルヨリ二十四時內ニ其申立ヲ書記局ニ滯置シ一通ヲ本人ニ送達スヘシ

豫審ノ手續ヲ繼續スヘシ但終結ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス　又急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審ノ手續ヲ停止スルコトヲ得

第二百四十一條　會議局ニ於テ忌避ニ付テノ故障ヲ棄却シタル時ハ上告ヲ爲スコトヲ得但豫審終結ノ言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百四十二條　豫審判事自ラ第二百三十七條ニ定メタル原由アルコトヲ認メ又ハ回避スヘキ者ト思料シタル時ハ會議局ニ於テ之ヲ判決スヘシ　回避ノ申立ハ會議局ニ於テ忌避又ハ回避ノ申立ヲ認可シタル時ハ裁判所長更ニ他ノ判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムヘシ其判事ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ前豫審判事ノ爲シタル處分ト雖モ更ニ取調ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條　書記ハ自ラ回避シ又ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

第二百四十五條　檢察官ハ被告人又ハ民事原告人ヨリ之ヲ忌避又ハ其事件ヲ移スヘキ裁判所ノ管轄違ニ非サレハ故障ヲ爲スコトヲ得ス

第二百四十六條　故障ノ期限ハ一日ナリトス但言渡書ノ送達アリタルヨリ之ヲ起算ス

第二百四十七條　檢事民事原告人及ヒ被告人故障ヲ爲スニハ申立書ヲ書記局ニ差出スヘシ書記ハ速ニ其旨ヲ對手人ニ通知スヘシ

故障申立人ハ三日內ニ趣意書ヲ書記局ニ差出スヘシ　書記ハ速ニ趣意書ヲ對手人ニ送達スヘシ對手人ハ三日內ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得

第二百四十八條　檢事民事原告人故障ヲ爲スニハ申立書ヲ書記局ニ差出スヘシ書記ハ速ニ其旨ヲ對手人ニ通知スヘシ

故障申立人ハ三日內ニ趣意書ヲ書記局ニ差出スヘシ　書記ハ速ニ趣意書ヲ對手人ニ送達スヘシ對手人ハ三日內ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得

第二百四十九條　故障アリタル時ハ書記ヨリ其判決アルマテハ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スコトヲ得ス　民事原告人ハ私訴ニ付キ越權ノ處分アルニ因リ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スコトヲ得ス

第二百五十條　豫審終結ノ言渡ニ對シ故障アリタル時ハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス但被告人ヲ勾留シ又ハ保釋責付ヲ取消スノ言渡ハ其執行ヲ停止セス

第一百五十一條　書記ハ故障趣意書答辨書其他訴訟書類ヲ會議局ニ差出スヘシ

第二百五十二條　會議局ニ於テハ第二百三十六條ノ規則ニ從ヒ故障ノ判決ヲ爲スヘシ　豫審判事ノ言渡ヲ認可シタル時ハ其言渡ノ若シ其全部又ハ幾分ヲ取消シタル時ハ全部ニ付キ更ニ言渡ヲ爲スヘシ

第二百五十三條　會議局ニ於テ必要ナリトスル時ハ判事一名ヲシテ更ニ豫審ヲ爲シ又ハ其指示スル所ノ條件ニ付キ更ニ取調ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二百五十四條　會議局ニ於テ故障ノ取調中管轄違越權又ハ職權ヲ以テ豫審判事ノ言渡ヲ取消スコトヲ得

第二百五十五條　會議局ニ於テ故障ノ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルコトヲ發見シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシムルコトヲ得　檢事ハ意見書ヲ差出スコトヲ得

○治罪法第四編○豫審上訴

依リ故障ト共ニ之ヲ判決ス可シ

第二百五十六條　故障ノ判決アリタル時ハ速ニ其言渡書ノ謄本ヲ檢事民事原告人及ヒ被告人ニ送達ス可シ

第二百五十七條　檢事其他訴訟關係人ハ會議局ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十八條　被告人ニ送達ス可キ言渡書ニハ其言渡ニ對シ上訴スルヲ得可キヤ及ヒ其期限ヲ記載ス可シ其記載ナキ時ハ規則ニ從ヒ更ニ言渡書ノ送達アルマテ被告人上訴ノ權ヲ失フコトナカル可シ

第二百五十九條　第三百十一條ヨリ第三百十三條マテノ規則ハ豫審ノ上訴ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二百六十條　重罪裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ檢事其言渡書ニ一切ノ書類ヲ添ヘ速ニ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致ス可シ　檢事長ハ一切ノ書類證據物件及ヒ被告人ヲ重罪裁判所ニ移スノ處分ヲ檢事ニ命ス可シ　重罪裁判所以外ノ裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ檢事速ニ其執行ヲ爲ス可シ

第二百六十一條　豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定シタル時ハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ更ニ訴ヲ受クルコトヲ得可シ但新ナル證據アル時ハ此限ニ在ラス　檢事長ハ一切ノ書類證據物件及ヒ被告人ヲ重罪裁判所ニ移スノ處分ヲ檢事ニ命ス可シ　重罪裁判所以外ノ裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ檢事速ニ其執行ヲ爲ス可シ

## 第四編　公判

### 第一章　通則

第二百六十二條　訴訟事件ハ書記局ノ簿冊ニ登記シタル順序ニ從ヒ之ヲ公判ニ付ス可シ　裁判所ハ未決勾留ノ日數ヲ減縮スル爲メ職權ヲ以テ其順序ニ從ヒ之ヲ變更スルコトヲ得　又重要ナル事由ノ爲メ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタル時モ亦順序ヲ變更スルコトヲ得其裁判言渡ハ之ヲ公行ス否ラサル時ハ其言渡ノ効ナカル可シ

第二百六十三條　重罪輕罪違警罪ノ訊問辨論及ヒ裁判言渡ハ之ヲ公行ス可シ

第二百六十四條　被告事件公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ害スルノ恐アル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得其裁判言渡ヲ爲スニ當テハ傍聽ヲ許ス可シ

第二百六十五條　被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受ケサルコトノ刑ニ該ル可キ被告人疾病アルニ非スシテ出廷ヲ肯セサル時ハ辨論スルコトヲ肯セサル時ハ缺席トシテ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第二百六十六條　被告人ハ辨論ノ爲メ辨護人ヲ用フルコトヲ得

第二百六十七條　被告人公廷ニ於テ暴行又ハ喧噪ヲ爲シ辨論ヲ妨礙スル時ハ裁判長ヨリ再度告戒ヲ爲シ仍ホ之ニ從ハサル時ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ被告人ヲ退廷セシメ若シハ勾留スルコトヲ得　前項ノ場合ニ於テハ對審トシテ引續キ辨論及ヒ裁判言渡ヲ爲スコトヲ得

第二百六十八條　被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出廷スルコト能ハサル時ハ痊癒ニ至ルマテ辨論ヲ停止ス　辨論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタル時ハ其痊癒ノ後新ニ辨論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ル時ハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辨論ヲ停止シ又ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタル時ハ新ニ辨論ヲ爲スコトナク裁判言渡ヲ爲ス可シ　若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辨論ヲ終リタル時ハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトナク裁判言渡ヲ爲ス可シ

第二百六十九條　禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人公判ノ日時ニ出廷セスト雖モ豫審終結ノ言渡書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達シタルノ證アルニ非サレハ闕席裁判ヲ爲ス可カラス　豫審終結ノ言渡書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期限ヲ定メ其期限內ニ被告人出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可キノ告知書ヲ親屬若クハ戶長ニ送達ス可シ

第二百七十條　闕席シタル被告人ニ付テハ辨護人ヲ用フルコトヲ許サス但其親屬故意ハ被告人ノ出廷スルコト能ハサルノ事由ヲ證明スルコトヲ得　裁判所ニ於テ其事由ヲ正當ナリトスル時ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判ヲ延期スルコトヲ得

第二百七十一條　被告人中ノ一名又ハ數名出廷セスト雖モ出廷シタル者ニ付テハ通常ノ期則ニ從ヒ對審裁判ヲ爲ス可シ

○治罪法第四編○通則

第二百七十二條　裁判長ハ公廷ニ於テ諸般ノ取締ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スヿヲ得

ヲ妨礙スル者アル時ハ之ヲ制止シ又ハ退廷セシムルヿヲ得

第二百七十三條　公廷ニ於テ輕罪違警罪ヲ犯シタル者アル時ハ其身分ノ如何ニ拘ハラス裁判長ノ命令ニ因リ之ヲ取押ヘ檢察官ノ意見ヲ聽キ直ヲニ裁判ヲ爲シ又ハ次ノ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

前項ノ犯罪ノ事件及ヒ裁判長ノ處分ニ付キ卽時ニ調書ヲ作ルヿヲ得

第二百七十四條　前條ノ場合ニ於テ違警罪ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲シ輕罪ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス可シ

輕罪裁判所其他上等ノ裁判所ニテハ輕罪ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲ス可シ

第二百七十五條　公廷ニ於テ重罪ヲ犯シタル者アル時ハ裁判長被告人及ヒ證人ヲ訊問シ調書ヲ作リ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ通常ノ規則ニ從ヒ裁判スル爲メ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

第二百七十六條　裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲スヿヲ得

ル附帶ノ事件及ヒ公廷內ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラス

第二百七十七條ニ定メタル原由アル時ハ違警罪裁判所輕罪裁判所ハ本案ノ裁判言渡ヲ待タス直ヲニ控訴又ハ上告ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辨論ヲ停止ス

第二百七十七條　檢察官其他訴訟關係人ハ第二百三十七條ニ定メタル原由アル時ハ違警罪裁判所輕罪裁判所控訴裁判所又ハ重罪裁判所ノ裁判官及ヒ書記ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辨論ヲ停止ス

第二百七十九條　檢察官被告人及ヒ民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサルノ申立ヲ爲スヿヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

第二百八十條　忌避ノ申立及ヒ其判決ヲ爲スニハ第二百三十七條ヨリ第二百四十五條マテ



ニ定メタル規則ニ從フ

第二百八十二條　忌避又ハ回避ノ申立ヲ棄却シタル時ハ前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ニ取掛ル可シ

但シ五日間辨論ヲ停止シタル時ハ新ニ辨論ヲ爲ス可シ

第二百八十三條　公判ニ於テ用フ可キ證據ハ豫審ニ於テ用フ可キ證據ニ同シ

第二百八十四條　裁判長ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ豫審中管轄官吏ノ作リタル調書及ヒ檢證書類ヲ朗讀セシムルヿヲ得

是等ノ書類ハ原被證人ノ陳述ト同一ノ効ヲ有ス

第二百八十五條　調書ヲ作リタル司法警察官ハ檢察官ノ請求ニ因リ證人トシテ之ヲ呼出シ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ呼出スヿヲ得　豫審中管轄官吏ノ作リタル調書ニ於テハ之ヲ呼出スヿヲ得

豫審ニ於テ錄取シタル證人ハ更ニ之ヲ呼出スヿヲ得

第二百八十六條　豫審ニ於テ訊問シタル證人ハ更ニ之ヲ呼出サヽルヿヲ得　豫審判事ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルヿヲ得

ノ陳述書ハ更ニ其證人ヲ呼出サヽル時證人呼出ヲ受ケ出廷セサル時又ハ豫審及ヒ公判ニ於テノ陳述ヲ比較ス可キ時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルヿヲ得

第二百八十七條　第百七十八條以下ノ規則ハ公判ノ證人ニモ亦之ヲ適用ス

第二百八十八條　證人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラス又陳述前辨論ニ立會フ可カラス

第二百八十九條　證人ハ左ノ順序ニ從ヒ訊問ス可シ　一檢察官ノ請求ニ因リ呼出シタル證人　二民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人　三被告人及ヒ民事擔當人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人

第二百九十條　證人數名アル時ハ氏名目錄ノ順序ニ從ヒ之ヲ訊問ス可シ但裁判長ハ證人ヲ呼出シタル者ノ意見ヲ聽キ順序ヲ變更スルヿヲ得

第二百九十一條　證人及ヒ被告ハ裁判長ニ非サレハ之ヲ訊問スルヿヲ得

裁判長ニ告ケ證人及ヒ被告人ヲ訊問スルヿヲ得

ナラシムル爲メ證人ヲ訊問ス可キヿヲ裁判長ニ求ムルヿヲ得

第二百九十二條　證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テタル疑ヒ可キ者ハ檢察官ハ陪席判事及ヒ檢察官ハ訴訟關係人ハ辨論ニ必要ナリトスル條件ヲ分明

第二百九十三條　證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テタル疑ヒ可キ者ハ檢察官ハ陪席判事及ヒ檢察官ハ訴訟關係人ハ辨論ニ必要ナリトスル條件ヲ分明

○治罪法第四編○通則

所ニ於テ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ職務判事ニ送致スル可キノ言渡ヲ爲ス可シ　其證人陳述ハ書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ　本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ事件ニ付キ裁判ノ延期ヲ言渡スヘキヲ得

第二百九十三條　證人呼出ニ應セサル時ハ裁判所ニ於テ即時ニ檢察官ノ意見ヲ聽キ左ノ科料罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

五錢以下ノ科料　二輕罪以上ノ事件ニ付テハ二圓以上十圓以下ノ罰金　被告人闕席シタル時ハ其呼出シタル證人出廷セスト雖モ科料罰金ヲ言渡ス可カラス

第二百九十四條　前條ノ言渡書ハ即時ニ書記ヨリ本人ニ送達ス可シ

出廷スルヿ能ハサリシ正當ノ事由ヲ證明シタル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ科料又ハ罰金ノ言渡ヲ取消ス可シ但重罪裁判所閉廷ノ後ハ其開廷シタル裁判所ニ其申立ヲ爲ス可シ

第二百九十五條　證人呼出ニ應セサル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ニ於テ公判ヲ延期スルノ言渡ヲ爲スヿヲ得　檢察官自ラ其請求ヲ爲サヽル時ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公判ヲ延期スルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

第二百九十六條　證人再度ノ呼出ヲ受ケ仍ホ出廷セサル時ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ前ニ定メタル科料罰金ノ二倍及ヒ再度ノ呼出ノ入費ヲ言渡ス可シ此場合ニ於テモ亦前條ニ從ヒ再ヒ公判ヲ延期スルヿヲ得但延期シタル時ハ其證人ニ對シ勾引狀ヲ發ス可シ

第二百九十七條　第百九十一條以下ノ規則ハ公判ニ於テ裁判所ノ爲ス決定又ハ命シタル事件ニ付說明ノ爲メ更ニ之ヲ呼出ス時ハ證人ニ付キ定メタル前數條ノ規則ニ從ヒ處分ス可シ

第二百九十八條　被告人證者ナル時ハ第百五十六條第百五十七條ノ規則ニ從ヒ且檢察官其他訴訟關係人ノ意見ヲ聽キ訊問ノ順序ヲ定ム可シ

第二百九十九條　被告人數名アル時ハ裁判長其意見ヲ述ヘサルヿヲ得ス　裁判長ハ事實審見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ職權ヲ以テ其順序ヲ變更スルヿヲ得

第三百條　證人調ノ後檢察官民事原告人被告人其辨護人及ヒ民事擔當人其他訴訟關係人ノ陳述ハ他ヨリ妨礙スルヿヲ得ス　檢察官其他訴訟關係人ハ述ヘタル辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ發見セシムル可シ

第三百一條　檢察官公訴ヲ拋棄スト雖モ裁判所ニ於テハ本案ニ付キ相當ノ裁判ヲ爲ス可シ

第三百二條　辯論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリタル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ但其判決ニ對スル控訴又ハ上告ハ本案ノ裁判言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

第三百三條　民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス何時ニテモ其訴訟ニ關係スルヿヲ得　又民事原告人ハ若シ異議ノ申立アリタル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ其判決ニ違シテハ本案ノ裁判言渡ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ本案ノ弁論ヲ停止ス

第三百四條　裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示シ且一切ノ証憑ヲ明示ス可シ

第三百五條　無罪ノ言渡ヲ爲スニハ其理由トシテ被告人ニ將シ犯罪ノ證憑ナキヿヲ明示ス可シ　免訴ノ言渡ヲ爲スニモ亦同シ

第三百六條　裁判所ニ於テハ公訴ノ裁判ト同時ニ私訴ノ裁判言渡ヲ爲スヿヲ得　私訴ニ付キ取調未タ充分ナラサル時ハ公訴ノ裁判アリタル後其裁判言渡ヲ爲スヿヲ得

第三百七條　被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴裁判費用ノ全部又ハ幾分ヲ擔當ス可キ言渡ヲ爲ス可シ　免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴裁判費用ハ官ニテ之ヲ擔當ス可シ　私訴裁判費用ハ民事ノ規則ニ從ヒ敗訴シタル者之ヲ擔當スヿヲ得

第三百八條　被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物品ハ所有主ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スルノ言渡爲ス可シ

第三百九條　本案ノ裁判言渡ニ對スル上訴ノ期限内又上訴アリタル時ハ其判決アルマテ裁判執行ヲ停止ス

## ○治罪法第四編○通則

第三百十條　禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタル時ハ現ニ囚ヘラレ又ハ保釋ヲ取消サレタル時ハ其ノ日ヨリ上訴期限ヲ起算ス

第三百十一條　勾留ヲ受ケタル者上訴ヲ爲シ又ハ保釋ヲ求ムル時ハ其申立書ヲ監獄長ニ差出スヘシ監獄長ハ速ニ之ヲ其裁判所ノ書記ニ差出スヘシ

第三百十二條　訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ因リ上訴期限ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ證明シタル時ハ期限ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但變災厄難ヲ免カレタル日ヨリ通常ノ期限內ニ其證據ヲ申立書ニ添ヘ上訴ヲ爲スヘシ

第三百十三條　書記ハ速ニ前條ノ申立書ヲ對手人ニ送達スヘシ對手人ハ三日內ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得

上訴ヲ判決スヘキ裁判所ニ於テハ會議局ニテ檢察官ノ意見ヲ聽キ先ツ其上訴ヲ受理スヘキヤ否ヤヲ判決スヘシ

上訴ヲ受理スヘキ者ト判決シタル時ハ書記ヲシテ其旨ヲ訴訟關係人ニ通知セシメ通常ノ規則ニ從ヒ本案ノ裁判ヲ爲スヘシ　上訴ヲ受理スヘカラサル者ト判決シタル時ハ他ノ原由アルニ非サレハ卽時ニ裁判執行ヲ爲サシムヘシ

第三百十四條　裁判言渡ハ辯論ヲ終リタル後公廷ニ於テ卽時ニ之ヲ爲シ又ハ次日ニ之ヲ爲スヘシ裁判言渡ハ其言渡前裁判官之ヲ作リ書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判所年月日其事件ニ干預シタル檢察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第三百十五條　訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判言渡書ノ謄本ヲ其求ヲ爲シタル時ハ書記ニ二十四時內ニ之ヲ下付スヘシ

第三百十六條　對審裁判ニ因リ刑ノ言渡アリタル時ハ裁判長ヨリ其言渡ヲ告知シ又關席裁判ニ因リ刑ノ言渡アリタル時ハ其言渡ニ對シ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ得可キ旨及ヒ其期限ヲ言渡書ニ記載スヘシ　若シ其告知又ハ記載ナキ時ハ通常ノ規則ニ從ヒ其告知アルマテ上訴期限ノ經過ヲ停止ス

第三百十七條　書記ハ各事件ニ付キ各別ニ公判始末書ヲ作リ左ノ條件其他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一裁判ヲ公行シタルヿ及ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡アリタルヿ及ヒ其陳述

二被告人ノ訊問及ヒ其陳述

三證人鑑定人ノ陳述及ヒ宣誓ヲ爲シタルヿ若シ宣誓ヲ爲ササル時ハ其事由

四原被ノ證據物件ニ付ヒ檢察官ヨリ他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ判決

五辯論中異議ノ申立アリタルヿ及日ヲ期シテ申立ツヘキ事件ヲ申立タルヿ竝等ノ事件

六辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ發言セシメタルヿ

第三百十八條　公判始末書ニハ前條ニ記載シタル條件ノ外言渡ヲ爲シタル裁判所年月日裁判長陪席判事檢察官及ヒ書記ノ氏名ヲ記載スヘシ　辯論數日ニ渉ル時ハ其旨ヲ記載スヘシ

辯論中豫備判事ヲシテ代ラシメタル時ハ其旨ヲ記載スヘシ

第三百十九條　公判始末書ハ裁判言渡ヨリ三日內ニ之ヲ整頓シ裁判長及ヒ書記署名捺印スヘシ　裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閱シ若シ意見アル時ハ其紙尾ニ記載スヘシ

第三百二十條　裁判言渡書及ヒ公判始末書ノ正本ハ其裁判所ノ書記局ニ保存スヘシ　上訴アリタル時ハ裁判長及ヒ書記裁判言渡書及ヒ公判始末書ノ謄本ニ認印シ之ヲ上訴書類ニ添フヘシ

第三百二十一條　逮警罪公判

逮警罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

第三百二十一條　逮警罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

一檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀　二豫審判事又ハ上等ノ裁判所ノ發シタル呼出狀

第三百二十二條　呼出狀ニハ呼出ヲ受ケ可キ者ノ氏名職業住所出廷ノ日時被告事件及ヒ代人ヲシテ出廷セシムルヿヲ得可キ旨ヲ記載スヘシ若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其證人ヲ呼出サヽル時ハ公廷ニテ其事件ノ告知ヲ受ケタル後其呼出及ヒ辯護ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルヿヲ得

第三百二十三條　呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

第三百二十四條　逮警罪裁判官ハ被告事件急速ヲ要スル時ハ公判ニ取掛ル前檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ對手人ノ立會ヲ要セスシテ檢証處分ヲ爲スヿヲ得

第三百二十五條　證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ廿四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出スヘシ

又呼出ヲ受ケスシテ出廷シタル者ト雖モ訊問前其名刺ヲ書記ニ差出シタル時ハ裁判所ニ於テ證人トシテ其陳述ヲ聽クヿヲ得

○治罪法第四編○　逮警罪公判

第三百二十六條　書記ハ各事件毎ニ訴訟關係人ノ氏名ヲ明立ツ可シ若シ其呼立ニ應セサル時ハ他ノ事件ノ裁判ヲ終リタル後其事件ヲ裁判ス可シ

第三百二十七條　輕罪裁判官ハ最初ニ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ　官面ノ作リタル調書又ハ申立書アル時ハ書記之ヲ朗讀ス可シ　檢察官ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

第三百二十八條　輕罪裁判官ハ被告人ニ被告事件ヲ承認スルヤ否ヤヲ訊問ス可シ　若シ被告人代人ヲ以テ白狀ヲ爲ス時ハ其署名捺印シタル書面ヲ差出ス可シ

第三百二十九條　被告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ差出ス可シ　若シ白狀ナキ時ハ原被ノ證人ヲ訊問シ其他證憑アル時ハ之ヲ差出ス可シ

第三百三十條　檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ　民事原告人ハ被害事件ヲ證明シ及ヒ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ　被告人民事擔當人又ハ其代人ハ辯解ヲ爲ス可シ

第三百三十一條　呼出ヲ受ケタル被告人民事擔當人又ハ其代人出廷セサル時ハ檢察官及ヒ民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キ調席裁判言渡ヲ爲ス可シ　民事原告人出廷セサル時亦同シ

第三百三十二條　調席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ調席シタル書又ハ其住所ニ之ヲ送達ス可シ　調席裁判ヲ受ケタル者故障ヲ爲サントスル時ハ言渡書ノ送達アリタルヨリ三日內ニ其申立書ヲ書記局ニ差出ス可シ

第三百三十三條　裁判所ニ於テハ先ツ故障ノ申立ヲ受理ス可キヤ否ヤヲ判決ス可シ若シ受理ス可キ者トル判決シタル時ハ書記ヨリ故障アリタル旨及ヒ其事件ヲ公判ニ付ス可キ日時ヲ故障ノ對手人ニ通知ス可キ日時ヲ其前日ニ故障ノ申立人ニ報知ス可シ　但其送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

第三百三十四條　故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ第二回ノ裁判ヲ爲ス可シ　其裁判ニ調席シタル者ハ故障ヲ爲スヿヲ得ス

第三百三十五條　犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ　又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百三十六條　被告事件輕罪ニシテ且證憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百三十七條　被告事件重罪又ハ輕罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ但被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルヿヲ得

第三百三十八條　違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴スルヿヲ得

一被告人ハ拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時　二民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上治安裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時　三檢察官其他訴訟關係人ハ上ニ記載シタル原由アラサル時ト雖モ管轄違越權擅律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

第三百三十九條　控訴ヲ爲サントスル者ハ原裁判所ノ書記局ニ其申立書ヲ差出ス可シ但其申立ノ期限ハ對審裁判ニ付テハ言渡ヨリ三日內又調席裁判ニ付キ故障アラサル時ハ本人又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日內トス　控訴ヲ爲スノ申立アリタル時ハ書記ヨリ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ

第三百四十條　訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢察官ヨリ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之ヲ送致ス可シ　若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受ケル可キ裁判所ノ檢察官ニ其意見書ヲ差出ス可シ

第三百四十一條　控訴ヲ受ケル可キ裁判所ニ於テハ書記局ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ　呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

第三百四十二條　控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲スヿヲ得但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルヿヲ得

第三百四十三條　控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル證人又ハ始審ニ於テ陳述シタル證人ヲ呼出スヿヲ得ス

第三百四十四條　控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ　被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡スヿヲ得

○治罪法第四編○　違警罪及判

又　私訴ニ付テノ控訴ノ裁判ハ通常民事ニ規則ニ從フ

第三百四十五條　第三百三十一條以下ノ規則ハ控訴ノ瞬席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第三百四十六條　檢察官其他訴訟關係人ハ違警罪事件ノ終審ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヲ得

第三章　輕罪公判

第三百四十七條　輕罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス　一檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀　二豫審判事輕罪其事件ヲ移スノ言渡

第三百四十八條　呼出狀ニ付テハ第三百二十二條第三百二十三條ノ規則ニ從フ

第三百四十九條　被告事件罰金ノ刑ニ該ル可キ時ハ代人ナシテ出廷セシムルヲ得可キ旨ヲ呼出狀ニ記載ス可シ　民事原告人及ヒ民事擔當人ハ代人ナシテ出廷セシムルヲ得

第三百五十條　證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

第三百五十一條　第三百二十四條ノ規則ハ豫審ヲ經サル輕罪事件ニモ亦之ヲ適用ス

第三百五十二條　檢察官ハ裁判長ヨリ被告人ノ氏名年齡職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問ヒタル後被告事件ヲ陳述ス可シ　調書又ハ申立書アル時ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次ニ原被證人ノ陳述ヲ聽キ且證據物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ　被告人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲ス可シ　民事原告人ハ要償ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

第三百五十三條　檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ　被告人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辯ヲ爲スヲ得

第三百五十四條　罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人又ハ第二百六十九條ノ規則ニ從ヒ瞬席裁判ヲ爲スヲ得可キ被告人其呼出ノ日時ニ出廷セサル時ハ瞬席裁判ヲ爲ス可シ

第三百五十五條　瞬席裁判ニ關スル第三百三十一條ヨリ第三百三十四條マテノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

第三百五十六條　瞬席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ左ノ場合ヲ除ノ外刑ノ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲スヲ得　一被告人本案ノ裁判前豫メ裁判ヲ可キ事件ヲ申立タル時　二裁判言渡書ヲ本人ニ送達セタル時　三被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル時　第一ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタル日ヨリ第三第三ノ場合ニ於テハ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三日內ニ故障ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條　裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリト認ムル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル證人ヲ呼出シ證定人ヲ命シ書ヲ付テハ第三編第三章ニ定メタル規則ニ從フ　又豫審ヲ經サル事件ニ付テハ豫審判事ナシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ瞬調ヲ爲シ且其報告書ヲ送出サシムルコトヲ得

第三百五十八條　犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ　又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ　本條ノ場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百五十九條　被告事件違警罪ナル時ハ豫審ヲ經サル時ハ豫審判事ニ送付スル言渡ヲ爲ス可シ　被告事件違警罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ但被告人勾留ヲ受ケサル時ハ勾引狀ヲ發ス可シ

第三百六十條　被告事件重罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ若シ豫審ヲ經サル時ハ豫審判事ニ送付スル旨ヲ之ヲ瞬審判事ニ送致ス可シ　訴訟書類及ヒ証據物件ハ檢察官ヨリ之ヲ瞬審判事ニ送致ス可シ

第三百六十一條　被告事件豫審ヲ經タル時ハ之ヲ其裁判局ニ於テハ第二百五十三條第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ取調ヲ爲シ被告人ヲ管轄裁判所ニ送付スル旨ヲ爲ス可シ　會議局ノ會議ニ因リ事件ヲ受理シタル場合ニ於テ新ナル証憑ヲ發見スルコトナクシテ其事件ヲ重罪ナリトスル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ　檢事ハ大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ

第三百六十二條　前二條ノ場合ニ於テハ會議局又ハ大審院ノ判決アルマテ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ被告人ヲ其裁判所ノ監倉ニ留置スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得　又第二百十條以下ノ規則ニ從ヒ保釋ニ付キ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十三條　前二條ノ場合ニ於テハ會議局又ハ大審院ノ判決アルマテ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ裁

○治罪法第四編○輕罪公判

第三百六十四條　被告事件輕罪ニシテ且証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スヿヲ得
禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然保釋責付ヲ取消シタル者トス但上訴中更ニ保釋ヲ求ムルヿヲ得
第三百六十五條　檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴スルヿヲ得
一檢察官ハ無罪免訴又ハ刑ノ言渡アリタル時但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時　二被告人ハ要償ニ付テノ言渡民事上始審裁判所ノ終審ノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受ケタル時　三民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ管轄違越權擅律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時　四檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擅律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ヲ適用ス
第三百六十六條　控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日內ニ之ヲ爲スヿヲ得　調席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直ニ控訴ヲ爲スヿヲ得但第三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日內ニ之ヲ爲スヿヲ可シ
第三百六十七條　公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタルヨリ五日內ニ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移スヿヲ可シ
第三百六十八條　第三百四十二條マテ及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス
第三百六十九條　輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスル時ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スヿヲ得
第三百七十條　控訴ノ調席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ調席裁判所及ヒ其故障ニ付キ定メタル規則ニ從フ
第三百七十一條　檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ヒ控訴裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得

## 第四章　重罪公判

第三百七十二條　重罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理スヿヲ得
一檢審裁判所ハ輕罪裁判所會議局ノ判決ニ因テ其事件ヲ移スノ言渡　二控訴裁判所又ハ大審院ノ判決ニ因テ其事件ヲ移スノ言渡



第三百七十三條　重罪裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ左ノ區別ニ從ヒ公訴狀ヲ作ルヿヲ可シ　控訴裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ノ時ハ檢事長公訴狀ヲ作ルヿヲ可シ　始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ノ時ハ檢事長公訴狀ヲ作ルヿヲ可シ　一被告事件ノ始末及ヒ加重減輕ノ摸樣　二被告人ノ氏名年齡身分職業住所出生ノ地　三證審ニ於テ集取シタル原被ノ證憑　四罪名法律ノ正條及ヒ重罪裁判所ニ移スノ言渡ノ概畧
第三百七十四條　公訴狀ニハ重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ記載シタル事件又ハ被告人ヲ記載スヿヲ可カラス
第三百七十五條　重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ同一ノ被告人ニ對シ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタル場合ニ於テ檢察官ハ各別ニ公訴狀ヲ作リタル上ニテ各別ニ辯論ヲ爲スヿヲ裁判所長ニ請求スルヿヲ得　裁判所長ハ同一ノ公訴狀ニ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタル場合ニ於テ其職權ヲ以テ各別ニ辯論ヲ爲サシムルヿヲ得又數箇ノ公訴狀ニ記載シタル事件ニ付キ同時ニ辯論ヲ爲サシムルヿヲ得
第三百七十六條　重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ記載シタル以外ノ事件又ハ被告人ヲ記載ス可カラス
第三百七十七條　書記ハ被告人出廷ヨリ少クトモ五日前ニ公訴狀ノ謄本ヲ被告人ニ送達ス可シ　被告人數名アル時ハ各別ニ其謄本ヲ送達ス可シ　若シ第三百七十八條　重罪裁判所長又ハ其委任ヲ受タル陪席判事ハ公訴狀ノ送達アリタルヨリ二十四時ノ經過書記ノ立會ニ依リ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任セサル時ハ裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ代言人中ヨリ之ヲ選任ス可シ　被辯護人ヲ選任シタルヨリ三日ノ後ニ非サレハ辯論ヲ取掛ルヿヲ得ス
告人數名アル時ハ各別ニ之ヲ訊問ス可キ正當ノ事由ヲ申立タル時被告人ニ代言人ヨリ異議ノ申立ナキ時ハ代言人一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルヿヲ得
第三百七十九條　辯護人ヲ選任スルニ非サレハ前條ノ規則ニ從ヒ裁判所長ヨリ之ヲ選任ス可シ但辯護人ヲ改選スル時ハ三日間辯論ヲ停止ス可シ
○治罪法第四編○重罪公判

第三百八十條　書記ハ第三百七十八條ノ場合ニ於テ訊問ノ調書ヲ作リ辯護人ヲ選任スルニ付キ其式ヲ履行シタルコトヲ記載スヘシ　辯論中辯護人ヲ改選シ及ヒ辯論ヲ停止シタル時ハ公判始末書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第三百八十一條　辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ前ノ吉渡ノ効ナカルヘシ　第三百七十七條ヨリ第三百七十九條マテノ規則ニ背キタルコトアリト雖モ辯論ニ取掛ル前ニ非サレハ被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十二條　辯護人ハ第三百七十八條ノ處分アリタル後被告人ト接見スルコトヲ得　又書記局ニ於テ一切ノ訴訟書類ヲ閲讀シ且之ヲ抄寫スルコトヲ得　辯護人ヲ除クノ外何人ト雖モ重罪裁判所ニ移スノ吉渡アリタルヨリ裁判吉渡アルマテ被告人ト接見スルコトヲ得ス但被告人現ニ勾留ヲ受クル地ノ裁判所長ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス

第三百八十三條　檢察官及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ被告人ニ送達スヘシ　被告人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人ノ氏名目錄ハ之ヲ民事原告人ニ送達スヘシ之ヲ檢察官ニ送致シ民事ニ付キ呼出シタル證人ノ氏名目錄ハ同上ノ期限内ニ書記ニ移スノ吉渡アリタルヨリ裁判吉渡アルマテ被告人ト接見スルコトヲ得ス但被告人現ニ勾留ヲ受クル地ノ裁判所長ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス

第三百八十四條　前條ノ規則ニ從ヒ豫メ氏名ヲ通知セサル證人ノ陳述ハ事實參考ノ爲メニ非サレハ之ヲ聽クコトヲ得ス但對手人ヨリ異議ナキトキハ此限ニ在ラス

第三百八十五條　證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出スヘシ但被告人ヲ呼出スヘキ裁判長ハ開廷ノ日ニ當リ公廷ニ於テ陪席判事檢察官ノ面前ニテ開廳スヘキコトヲ陳述スヘシ但被告人ヲ呼出シタル時ハ重罪裁判所ヲ在ノ地ノ裁判所判事一名ヲ以テ豫備陪席判事ト爲スコトヲ得

第三百八十六條　裁判官檢察官及ヒ書記各其席ニ就キタル後即時ニ訊問及ヒ辯論ニ取掛ルヘシ　裁判長ハ先ツ被告人ノ氏名年齡職業身分住所出生ノ地ヲ問フヘシ　若シ其答辭ト豫審中ノ陳述ト齟齬アリト雖モ公訴狀ニ記載シタル被告人ニ相違ナキ時ハ引續キ辯論ヲ爲スヘシ

第三百八十七條　裁判長ハ前條ノ訊問ヲ終リタル後證憑ヲ差出スニ從ヒ其證憑ニ付キ辨解ヲ爲シ且自己ノ利益ト爲ルヘキ反證ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ被告人ニ告知スヘシ

第三百八十八條　裁判長ハ原告證人陳述ヲ終リタル毎ニ被告人ニ告知スヘシ　但裁判長ハ陳述ヲ爲シタル證人其席ニ留ルヘキヲ命シ又ハ更ニ證人ヲ訊問スルヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百八十九條　裁判長ハ職權ヲ以テ何人ト雖モ證人ニ對シ直接ニ問ヲ發スルヲ得　裁判長ハ職權ヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得　裁判長ハ證人陳述ヲ終リタル後被告人ニ向テ其事由ヲ辨明セシムヘシ

第三百九十條　裁判長ハ書記ヲシテ前條ノ期讀ヲ終リタル後被告人ヲ訊問スヘシ　被告人豫審中ニ自白シタル事件ヲ確認セス又ハ之ヲ取消サントスル時ハ其事由ヲ辨明セシムヘシ　被告人ノ自狀アリト雖モ仍ホ其取調ヲ爲サヽルヘカラス

第三百九十一條　裁判長ハ書記ヲシテ前條ノ期讀ヲ終リタル後被告人ヲ訊問スヘシ　被告人豫審中ニ自白シタル事件ヲ確認セス又ハ之ヲ取消サントスル時ハ其事由ヲ辨明セシムヘシ　被告人ノ自狀アリト雖モ仍ホ其取調ヲ爲サヽルヘカラス

第三百九十二條　裁判長ハ前條ノ訊問ヲ終リタル後證憑ヲ差出スニ從ヒ其證憑ニ付キ辨解ヲ爲シ且自己ノ利益ト爲ルヘキ反證ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ被告人ニ告知スヘシ

第三百九十三條　裁判長ハ原告證人陳述ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問フヘシ　但裁判長ハ陳述ヲ爲シタル證人其席ニ留ルヘキヲ命シ又ハ更ニ證人ヲ訊問スルヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條　陪席判事檢察官被告人及ヒ民事原告人ハ裁判長ニ告知シ陪席判事檢察官被告人及ヒ民事原告人ハ裁判長ニ告知シ

第三百九十五條　裁判長ハ職權ヲ以テ何人ト雖モ證人ニ對シ直接ニ問ヲ發スルヲ得　裁判長ハ職權ヲ以テ何人ト雖モ證人ニ對シ直接ニ問ヲ發スルヲ得

第三百九十六條　裁判長ハ證人陳述ヲ終リタル後被告人ニ向テ充分ナル辨明ヲ爲サシムヘシ　裁判長ハ證人陳述ヲ終リタル後被告人ニ向テ充分ナル辨明ヲ爲サシムヘシ

第三百九十七條　檢察官及ヒ被告人ハ辯論中ニ證見シタル事件ニ付キ豫審ヲ求ムルコトヲ得裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムヘシ　第三百五十七條第一項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百九十八條　辯論終結ノ吉渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述スヘシ

第三百九十九條　前條ノ意見其當ヲ得サルコトヲ辯論スルヲ得

第三百九十九條　前條ノ意見其當ヲ得サルコトヲ辯論スルヲ得

第三百九十七條　檢察官及ヒ被告人ハ辯論中ニ證見シタル事件ニ付キ豫審ヲ求ムルコトヲ得裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムヘシ　第三百五十七條第一項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百九十八條　辯論終結ノ吉渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述スヘシ

辨護人及ヒ民事擔當人ハ管轄ヲ糺スコトヲ得　檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述スヘシ　裁判所ニ於テハ私訴ノ辨論ヲ延期スルコトヲ得但開廷前之ヲ判決スルコトヲ得

第四百條　被告事件重罪ニシテ且證憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ　又第二百二十四條第三項以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免スヘシ

第四百一條　犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ　又原被ノ要償ニ付第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲スヘシ

第四百二條　辨論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ナシテ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判スヘシ

第四百三條　檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四條　開席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記ナシテ公訴狀及又原被證人ノ陳述ヲ聽クヘシ　檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述スヘシ　民事擔當人ハ管辨スルコトヲ得

第四百五條　開席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達スヘシ

第四百六條　開席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シテハ檢察官ニ非サレハ上告ヲ爲スコトヲ得　民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　開席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲シ但捕ニ就キタル時ハ十日內ニ故障ヲ爲スコトヲ得

第四百八條　故障ノ申立ハ開席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲スヘシ　重罪裁判所ニ於テハ故ツ其故障ヲ受理スヘキヤ否ヤ判決スヘシ　其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

第四百九條　開席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理スヘキ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ニ於テ裁判スヘシ

裁判所ノ裁判ヲ受ケ可キノ言渡ヲ爲スヘシ



第五編　大審院職權

第一章　上告

第四百十條　檢察官及ヒ被告人ハ原審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百十一條　免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタル時　三法律ニ背キ管轄違ノ處分アル時　四法律ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

第四百十二條　民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十一條ニ定メタル原由ニ付キ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百十三條　上告ノ爲メニモ亦附帶ノ上告ヲ爲スコトヲ得　大審院檢事長モ亦附帶ノ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條　上告ノ期限ハ三日ナリトス但豫審ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス

第四百十五條　豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告アリタル時ハ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ヲ除ノ外其執行ヲ停止ス

第四百十六條　上告ヲ爲サントスル者ハ其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ　上告ノ申立書ハ其申立アリタルヨリ二十四時內ニ書記ヨリ之ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百十七條　上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十八條　對手人ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ五日内ニ答辨書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ其答辨書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

第四百十九條　檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辨書ニ付テモ亦同シ

書記ハ前數條ニ定メタル期限經過シタル後遲ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出ス可シ

檢事長ハ上告事件ヲ刑事局ノ簿冊ニ登記ス可キヤ否ヤヲ院長ニ請求ス可シ

第四百二十條　上告申立人及ヒ對手人ハ代言人ヲ差出スヿヲ得　重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ選任セサル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

第四百二十一條　上告申立人及ヒ對手人ハ代言人ヲ差出スヿヲ得　重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ選任セサル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

第四百二十二條　院長ハ刑事局判事中ニテ專任判事一名ヲ命ス可シ　專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ但自己ノ意見ヲ付ス可カラス

第四百二十三條　上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事ノ報告書ヲ差出スマテハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書ヲ差出ス可シ　專任判事報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ差出シタル時ハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

第四百二十四條　書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代言人ニ報知ス可シ

第四百二十五條　開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事其報告書ヲ朗讀ス可シ　檢事長及ヒ代言人ハ各其趣意ヲ辯明ス可シ　私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ　二人以上ノ代言人ヲ差出サヽル時ハ其書面ヲ判決ス可シ

第四百二十六條　上告申立人又ハ代言人ニ於テ正當ノ事由ナクシテ開廷ノ日ニ出頭セサル時ハ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲ス可シ

第四百二十七條　大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ言渡ヲ爲ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十九條　擬律ノ錯誤若クハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルヿニ因リ原裁判言渡ヲ破毀シタル時ハ其事件ヲ移スヿナク大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百三十條　豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背キタルヿアリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ホサヽル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿナシ止タ其手續ヲ破毀ス可シ

第四百三十一條　豫審又ハ公判ノ言渡ノ幾分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關係アラサル時ハ大審院ニ於テ其上告ニ係ル部分ヲ破毀シ法律ニ從ヒ直チニ相當ノ裁判言渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第四百三十二條　大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可シ

第四百三十三條　大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キ時ハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移ス可シ

第四百三十四條　法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス　大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スヿヲ得

第四百三十五條　法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタル時ハ太審院檢事長ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スヿヲ得　非常上告アリタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百三十六條　左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟關係人ヨリ其院ニ哀訴スルヿヲ得

一大審院ニ於テ前數條ニ定メタル式ヲ履行セサル時　二訴訟關係人ヨリ申立タル條件ニ付キ判決ヲ爲サヽル時　三同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件組語シタル時

第四百三十七條　哀訴ヲ爲サントスル者ハ裁判言渡アリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其申立ヲ爲ス可シ

書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限内ニ其答辨書



治罪法第四編○上訴

ナ差出ス可シ　大審院ニ於テハ通常上告ノ規則ニ從ヒ裏訴ノ判決ヲ爲ス可シ

第四百三十八條　大審院ノ裁判言渡ハ其言渡アリタル時ヨリ三日間又裏訴アリタル時ハ其判決アルマデ執行ヲ停止ス

第二章　再審ノ訴

第四百三十九條　再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メニノミ之ヲ爲ス一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　裁判確定ノ後ニ於テ其言渡ノ原因タル證書又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確証アリタル時

二　同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三　犯罪ノ證明シタル時ト雖モ被告人ヲ時效ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

四　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

五　公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ僞造又ハ錯誤アリタル時ハ其親屬

第四百四十條　再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得可キ者左ノ如シ

一　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

二　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事長

三　大審院檢事長但司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

四　刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

五　刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其配偶者又ハ直系ノ親族

第四百四十一條　再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條　再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ　原裁判所ニ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大審院檢事長ニ差出ス可シ　原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所檢事長自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスル時ハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シ

第四百四十三條　大審院ニ於テハ檢事長ノ請求ニ因リ速ニ專任判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告書ヲ差出サシム可シ

第四百四十四條　大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ關キ刑事局判事全員會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲ス可シ

第四百四十五條　大審院ニ於テ再審ノ原由アルコトヲ認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ又ハ前項ノ原由アルコトヲ認メタル時ハ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可キコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ニ移シタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ又ハ前項ノ原由アルコトヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第四百四十六條　死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由アルコトヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク原裁判言渡ヲ破毀シ又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡ヲ揭示公告ス可シ

第三章　裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第四百四十八條　通常裁判所ト特別裁判所トヲ問ハス管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時又ハ避ノ原由若シハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ管理スルコト能ハサル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡ヲ揭示公告ス可シ

第四百四十九條　裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ大審院ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百五十條　大審院ニ於テハ刑事局判事五名以上會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決シ其事件ヲ管理ス可キ裁判所ヲ定示ス可シ

第四章　公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第四百五十一條　犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

第四百五十二條　公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法卿ノ命ニ因リ大審院檢事長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

第四百五十三條　大審院ニ於テハ會議局ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク速ニ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十四條　被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサルノ



○治罪法第五編○　裁判管轄ヲ定ムルノ訴

惡アル嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

第四百五十五條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得　民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十六條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ　書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達アリタル日ヨリ三日內ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得

第四百五十七條　大審院ニ於テハ第四百五十條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十八條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス

## 第六編　裁判執行

### 第一章　裁判執行

第四百五十九條　重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス

第四百六十條　死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ス可シ　司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ五日內ニ其執行ヲ爲ス可シ

第四百六十一條　死刑ヲ除ノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直ニ之ヲ執行ス可シ

第四百六十二條　刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ　罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可キ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徵收ス可シ

破壞渡ハ證案ス可キ

第四百六十三條　死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作リ刑ノ執行方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

共ニ署名捺印ス可シ　其他刑ノ執行ニ關スル方法

第四百六十四條　裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作リ左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ　一犯人ノ氏名年齡職業住所及ヒ出生ノ地　二罰名刑名　三再犯

四裁判言渡ヲ爲シタル年月日　五罰金裁判又ハ闕席裁判

第四百六十五條　既決犯罪表ハ二通ヲ作リ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ編置ス可シ　一通ヲ司法省ニ送致シ

第四百六十六條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所之ヲ判決ス可シ

第四百六十七條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ　裁判所ニ於テ本犯ナルコトヲ認定スルトキハ裁判官檢察官書記又ハ原被ノ證人ヲ呼出スコトヲ得

第四百六十八條　前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

第四百六十九條　賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

### 第二章　復權

第四百七十條　復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ爲ス可シ　復權ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ差出ス可シ

第四百七十一條　復權ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ　一裁判言渡書ノ謄本　二主刑ノ滿期特赦又ハ期滿免除ト爲リタルコトヲ証明スル書類　三假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ證書　四賠償及ヒ裁判費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタルノ證書　五過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

第四百七十二條　檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

第四百七十三條　檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法卿ニ差出ス可シ

第四百七十四條　司法卿ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閱ノ其願ヲ免許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

第四百七十五條　勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ因リ復權ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知ス可シ　前項ノ場合ニ於テ所檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通知ス可シ　前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十六條　復權ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ送致ス可シ　檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ　又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入ス可シ

## 第三章　特赦

第四百七十七條　特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルコトヲ得　監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ　但檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ

第四百七十八條　司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得　死刑ヲ除ノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第四百七十九條　特赦ノ申立棄却アリタル時ハ司法卿ヨリ其旨ヲ通知ス可シ

第四百八十條　特赦ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其旨致ス可シ　此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

## 治罪法追告

○大政官第四十四號御布告

逃罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ擬フヘシト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ內假宣取計ヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ俟ツ此旨布告候事

○第四十五號御布告

公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ證人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候條此旨布告候事　刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アル時ハ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許サス　豫審者ハ定テ之ヲ豫納セシムヘシ若シ豫納スルコト能ハサル時ハ公判ニ付證人ヲ呼出サントスル者アル時ハ裁判所ニ於テ其旅費日當等ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ　若シ被告人旅費日當ヲ豫納スルノ資力ナキ時ハ治罪法第七十條ノ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置シムヘシ

○問第四十六號御布告

書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ內ハ不及其儀候事　治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ內犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託ア リタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ　治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ內二名ト相定候事　治罪法第百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其擾亂犯人ト認料スヘキ者アル時ハ當分ノ內現行犯ニ准シ處分スルコトヲ得　治罪法第百三十三條第三條ニ家宅捜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日沒後ト雖モ共營業ヲ爲ス時間又ハ旅籠屋貸座敷ハ日出前日沒後ニ拘ハラス捜査致シ十三條ニ於テ治安判事ニ囑託スルコトヲ許シタル處分ハ當分ノ內其地ノ司法警察官ニモ囑託スルコトヲ得　治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發シ若シカラス　●　現行犯ノ場合ニ限リ令狀ヲ發シ若シカラス

○四十七號御布告

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ貰付スルハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布告候事

第一條　被告人ヲ貰付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシムヘキノ証書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムル可シ

第二條　貰付中被告人ヲ呼出ストキハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條　被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ費付ヲ取消スヘシ

○同第四十八號御布告

刑法治罪法中違警罪裁判所ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警察分署ニテ裁判可致候條此旨布告候事

○同第五十三號御布告

各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫別表ノ通改正シ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

（別表略ス）

○同第五十四號御布告

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ內輕罪ニシテ檢察官ニ於テ操審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲヲ得ヘシ此旨布告候事　但本文ノ場合ニ於テ訟廷內治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

○同第五十五號御布告

治罪法第七十五號末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

○同第五十六號御布告

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所（卽チ違警罪裁判所）始審裁判所（卽チ輕罪裁判所）ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑引控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

○同第五十七號御布告

御豆七島裁判事務當分該島ニテ民事ハ百圓以下及勸解幷ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

○同第五十九號御布告

治罪法中豫審判事勾引狀若クハ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事



○同第八十二號御達

司法官吏ヨリ巡査及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨相達候事

第一條　裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證ノ爲メ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルトキハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得　但時機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ事務緊急重要ニ渉ル時ハ直チニ巡査又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲヲ得

○同第八十六號御達

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公廷取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名巡査爲相詰ム拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡査或ハ押丁ヲシテ守卒トシテ公廷ニ入リ看護セシムヘシ此旨相達候事

改定監獄則　目錄


第一編
第一章　汎則
第二章　監署ノ規程
第三章　監獄ノ構造
第二編
第一章　役法（附時限）
第二章　工錢
第三章　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受ケル囚徒押送
第四章　假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舍
第三編
第一章　給與
第二章　疾病（附死亡）
第三章　書信
第四章　接見
第五章　差入品
第四編
第一章　敎誨
第二章　賞惡
第三章　懲罰


目錄終

改定監獄則

第一編　汎則

第一章

第一條　監獄ヲ別テ左ノ六種ニ爲ス　一留置場　裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時拘留スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス　二監倉　未決者ヲ拘留スルノ所トス　三懲治場　懲治人ヲ懲治スル所トス　四拘留場　拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス　五懲役場　懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス　六集治監　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス　北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治スル外ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第二條　監獄ハ內務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノニ適用スルコトヲ得ス

第三條　集治監ハ內務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ警視總監府知事縣令又ハ府知事（東京府ヲ除ク）縣令之ヲ管理ス　警視總監府知事縣令ハ每年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ　裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監獄ヲ巡閱スヘシ　府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡　スルヲ得

第四條　此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得

第五條　內務卿ハ每年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ　警視總監府知事縣令ハ每年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ　府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡　スルヲ得

第六條　在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條　在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ苦情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第八條　司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條　典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ內外ヲ視察シ或ハ物件ヲ查閱シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脫越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條　新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ查閱シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致セラレタル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス　未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法廷ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ

得ス

第十一條　已決四ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

入監ノ婦女乳兒（三歳未滿）ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條　新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ標本ニ照シ其要項ヲ詳錄シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人監舍ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條　總テ監房ニ入ルヽ物品ハ監獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條　總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス　若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充シト請フトキハ之ヲ許ス

第十五條　在監人書籍ヲ看シト請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナル者ノミヲ許スヘシ

第十六條　已決四ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス　一十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者　二滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齡ニシテ初犯ノ者　三初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條　要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫著シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ醫眼ノ所ニ小孔ヲ穿チ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十八條　放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ　矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齡ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限トス

第十九條　懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ　一刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ癈痼者　二尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入レタル者

第二十條　前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戸長ノ証票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サス但シ在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス　入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舍ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條　懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其居房ヲ別異ス　一十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者　二滿十六歳以上二十滿未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入シ者ト同上ノ年齡ニシテ初テ入場スル者

第二十二條　在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ　在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條　典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ錄サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條　賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ視察シタルトキハ之ヲ刪除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條　特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條　特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若シハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條　假出獄ヲ許サレタル者ニハ其証票ヲ與ヘ警察巡傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ錄シテ共ニ其地ノ警察官ニ送致スヘシ

第二十八條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條　在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ擇テ傳告者誘工者トナス　傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勉誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス　傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ後扉スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條　刑期滿限ノ後頼ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルコトヲ得

第三十一條　刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條　死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ鎖ラシムヘシ

其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二十分時ヲ過サレハ理葬若クハ下付スルコトヲ得ス

第三十三條　刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若ク

ハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス　親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ送付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス　若シ其物件又ハ代價ヲ受ケヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條　在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第三十五條　監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ　水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ過ナキトキハ要犯獄ニ係ル者ヲ除ク外一時解放スルヲ得

## 第三章　監獄ノ構造

第三十六條　留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

第三十七條　未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ　甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ　各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條　密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ　閨室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス　密室閨室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條　接見室ハ監舍ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱橫ノ格子ヲ嵌メ格子ロリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子內ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條　火ヲ監房外ニ置キ障碍スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條　死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ



## 第一章　役法（附時限）

第四十二條　定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ科程ヲ定メテ服役セシムヘシ滿十二歲以上十六歲未滿ノ者滿六十歲以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身躰ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寬恕ス　若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二四每ニ聯絆シ笠ヲ用テ（晴雨ヲ問ハス）其面ヲ掩ハシムヘシ但外行ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム　外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサラシムルヲ要ス

第四十三條　每日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ惡ノ之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ナカラシムヘシ

第四十四條　左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス　父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日　一月二日　元始祭　孝明天皇祭　紀元節　春季皇靈祭　神武天皇祭　秋季皇靈祭　神嘗祭　新嘗祭　天長節　十二月三十一日

第四十五條　囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシムヘシ其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條　定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ擇生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セシント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル　未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サシント請フトキモ亦同シ

第四十七條　懲治人ニハ敎誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間（休憩時間ヲ除）農業若クハ工藝ヲ敎ヘ力作セシムヘシ

○時限

第四十八條　未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ每朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシムヘシ又每日一時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條　定役ニ服スル者ハ每朝日出ノ頃ニ起床シ各其起床ヨリ約ヲ一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前一時前後ニ至リ休役ス飯後晝湯若クハ氷ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後晝

時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシムル其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴著ノ上拆ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシムル

第五十條　料稿ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラス罷役セシムル　午飯ニ就カシムルノ際料程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サス

## 第二章　工錢

第五十一條　定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ科定シ之ヲ十分シ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム　定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決監ニ在ル者並ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ料程ヲ畢テ仍ホ作業スル者料程外ノ工錢モ又同シ

第五十二條　第十九條第二款ニ記載シタル懲治人ニシテ其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルヿ能ハサル者及ヒ第三十條ニ記載シタル者ハ工錢ノ內ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條　在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ每月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條　各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條　官署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヿヲ得

第五十六條　在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ第三十三條ノ例ニ照ラシテ處分スヘシ

第五十七條　在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒收ス

## 第三章　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒押送

第五十八條　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ宣告書ノ謄書ヲ具シテ內務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察巡傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ　北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條　北海道ニ在ル集治監ハ每嵗三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條　徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

## 第四章　假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舍

第六十一條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舍ヲ貸與スヘシ屋舍ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ　前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戶長ニ通告スヘシ　其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ官署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

## 第三編

## 第一章　給與

第六十三條　已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條　未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス　貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヿ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條　已決囚ノ獄衣ハ藍色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條　獄衣ハ總テ箇袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第六十七條　在監人ニ貸與スル衣類雜具ニハ各番號ヲ墨書スヘシ

○通常服

一單衣　一袷　一綿入衣　一襦袢

○就役服

一單短衣　一袷短衣　一綿入短衣　一襦袢　一股引

○雜具

一蒲團　一蚊帳（長二尺）　一褥（長二尺）　一枕　一帶（長二尺）
一笠　以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澣濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條　在監人一人一日ノ食糧　一下白米十分ノ四挽割麥十分ノ六　七合　强キ力業ニ服スル者　一同　五合　輕キ力業ニ服スル者及ヒ滿十歲以上ノ未決者　一同　四合　工役ニ服セサル者及ヒ滿十歲以上ノ未決者　一同　三合　十歲未滿ノ幼者　一菜　金壹錢五厘以下　地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條　工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス　定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條　在監人日用ノ雜費（澣濯補綴又ハ炊用ノ薪炭其他一身ニ係ル日常諸費）ハ一人一日金壹錢貳厘以下トス

第七十一條　監房常置ノ器具　一貯水器幷ニ飲器　木製大小二種　但監房ニ圊圈ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス　一小箒　草ノ種類ヲ以テ製作セシ軟カナルモノ　一洗手盆　木製

第七十二條　浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條　已決囚及ヒ懲治人ノ髮ハ常ニ之ヲ短雜シ鬚ハ在ラス　婦女ノ梳髮ハ簪ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條　衣粘雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澣ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防ク等要スル但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

## 第二章　疾病（附死亡）

第七十五條　在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ綜リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム　懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條　病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯藥等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條　傳染病毒ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ愼密ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉ヲ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

○死亡

第七十八條　在監人死亡スレハ典獄看守長醫師幷在テ之ヲ檢屍スヘシ　未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條　死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以內ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヨシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ　遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ檜ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約テ面三寸長三尺五寸トス

## 第三章　書信

第八十條　已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ送ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認タルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條　未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經ルニ非レハ聽答セシムルヲ得ス

第八十二條　懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條　在監人ノ發スル信書ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ記シ若シ書中忌諱ニ涉ル辭ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條　外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル信書ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ記シタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ル者ト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條　信書ヲ檢閱スルハ先ツ置行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條　在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ檢シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム　親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ

第四章　接見

第八十七條　在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名屬籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキフナキトキハ之ヲ許シ看守長看守竝莅テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス　面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條　死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章　差入品

第八十九條　未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又飲食物（炊烹ヲ要セサルモノニシテ一人一食ノ量ニ限ル）ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他嗜生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條　已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章　敎誨

第九十二條　已決囚及ヒ懲治人敎誨ノ爲メ敎誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ諭セシム

第九十三條　敎誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモノトス

第九十四條　懲治人ニハ每日三四時間讀書習字算術度量圖書等ノ科目中ニ就キ之ヲ敎フヘキモノトス學科ハ懲治場ノ敎場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齡等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閱ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條　各監房內ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義ヲ附シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時內ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

○揭示

一在監人ハ常ニ敎令ヲ謹守スヘシ（未決監ニハ此款ヲ除ク）

一正ス（未決監ニハ此款ヲ除ク）

一每朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁圍圖等ヲ掃除スヘシ　一窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘ唾キ貯水ヲ濕用スル往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス

一每朝父母ニ和順ヲ主トシ敎誨聽聞ノ席ニ就クトキハ愼テ容止ヲ正ス

一在監人ハ常ニ敎令ヲ謹守スヘシ　一昼間ハ最モ鎭靜ヲ主トシ說話或ハ聲璧又ハ濫リニ起歩スルヲ禁ス但晝間ト雖ヒ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス　一許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戲ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ渉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス　一服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス（未決監ニハ此款ヲ除ク）　一許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一監房ニ於テ異常ノ事アルハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ　一非常ノ變災ニ遭フトキハ直ニ看守所ニ通報スヘシ　一病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ方ヲ致スヘキハ勿論其看病人ヲシテ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲セシムル者ハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ警器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ　一病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ方ヲ致スヘキハ勿論其看病人ヲシテ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲セシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ　一氷火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時內ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ　右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ匿ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日

某監獄署

第二章　賞罰

第九十六條　已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ヲ典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條　賞譽セシ者ニハ賞譽セシ每ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖（肩臂間ノ表面）ニ方二寸（曲尺）

ノ浅葱色ノ布ヲ縫著スヘシ

第九十八條　賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第九十九條　賞表ヲ得タル者ニハ一個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第百條　已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ頒置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第百一條　未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ錄シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第百二條　懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

## 第三章　懲罰

第百三條　已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス　一絕信　親屬故舊ト書信接見ヲ絕ス　二屏禁　晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絕シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス　三減食　常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス　四閉室　閉室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス　五減食閉室　減食閉室ニ七晝夜ヲ限トス　六重禁錮　晝夜一室ニ獨居セシム　二減食　常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第百四條　絕信屏禁ハ有限若クハ無限トス　減食閉室ハ七晝夜ヲ限トス

改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第百五條　懲治人及ヒ十六歳未滿ノ未決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス　一獨慎　晝夜一室ニ獨居セシム　二減食　常食ノ半以内ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第百六條　獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第百七條　未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者敎令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯スニ準擬シ減食スルコトヲ得

トキハ賞表一個又ハ數個ヲ褫奪ス

第百八條　賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ所犯ノ輕重ヲ量リ第百三條第百五條ニ準擬シ懲治人ニ在テハ鐵丸ヲ加フ

第百九條　無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年以下両脚又ハ一脚ニ鉄丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鉄ニ貫キ腰間ニ繫ク

第百十條　減食或ハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ

第百十一條　屏禁減食閉室又ハ獨慎ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ敎誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

第百十二條　罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ルシトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第百十三條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監獄ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

## 監獄經理諸表申報及記載例

一各廳ニ於テ申報スヘキ監獄事務ノ諸件ハ月報幷ニ雜報及ヒ錄報附錄等ノ樣本ニ照シ正副二通ヲ調製スヘシ

一月報ハ毎翌月十五日以内ニ其地ヲ發シ雜報及ヒ雜報附錄ハ一月ヨリ六月迄ヲ前期トシ七月ヨリ十二月迄ヲ後期トシ前期分ハ翌年一月中後期分ハ翌年一月中其地ヲ發シ申報スヘシ

一絕島又ハ遠隔ノ地ニ支署アリテ期限内ニ調製シ得ヘカラサル事アルトキハ先ツ編製シ得ヘキ分ヲ申報シ其餘ハ追次申報スヘシ（本文ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シテ申出ヘシ）

一凡ソ表記ノ文字ハ緯線横讀ノ用ニ供スルヲ例トス其人員金員等ノ記入ハ數字ヲ用フヘシ

一命員ハ闕位ニ止メ闕位ニ滿サルモノハ四捨五入ノ法ニ依ルヘシ其算位ノ標印ニハ千位ト百位ノ間ニハ點ヲ附スルヲ例トス（例ヘハ金一圓ハ一、〇〇〇金二圓五錢ハ二、〇五〇百人ハ一〇〇百八人ハ一〇八ト記スルノ類ナリ）

一表面各種目ト記入スヘキ件ナキトキハ毎區圈〇ヲ填入シ其誤脫ニ非ルヲ表スヘシ

一、署及ヒ監獄ノ數ハ附屬建物又ハ監舍ノ棟數ニ關セス單ニ場名ヲ以テ其數ト爲シ毎月盡日ノ現數ヲ掲ケ
ルヘシ

一、官吏ノ界内ニハ監獄ノ署務ニ從事スル官吏ノ本官兼官トモ毎月盡日ノ現員ヲ掲ケルヘシ但シ屬警部等
ヨリノ兼任又ハ傭等ヨリノ兼務ハ兼官ノ區ニ掲ケ書記ノ看守長ヲ兼任シ看守長ノ書記ヲ兼任スル者
ハ本官ノ區ノミニ掲ケルヘシ

一、准判任ニ非ル御用掛ハ總テ傭ノ區ニ掲ケルヘシ

一、看守押丁賞罰ノ界内ニハ其人員ノミヲ掲ケルヘシ其人員ハ毎賞罰ニ各一人トナスヲ例トス

一、未已決監懲治場及ヒ刑餘留置并ニ乳兒ノ各界内現員ノ區ニハ總テ毎月盡日ノ現員ヲ掲ケ入出監逃走
死亡賞罰等ハ其月中ノ員數ヲ掲ケルヘシ但一人ニシテ數日ニ罹ル病ニ罹ルハ止ケ一
人トシ其病愈テ他日又病ニ罹ル者ハ又一人トナスヲ例トス

一、已決監界内役事ノ區ニハ其月中ノ延人員ヲ掲ケ免役ノ區ニハ其月中ノ延人員ヲ掲ケ休力作ノ日ニハ大祭祝日其他事故ニ依リ休業セシ延
人員ヲ掲ケルヘシ

一、懲治場界内教料ノ區ニハ其月中ノ延人員ヲ掲ケ休力作ノ日ニハ大祭祝日其他事故ニ依リ休業セシ延
人員ヲ掲ケルヘシ

一、懲罰ノ區ニハ其月中ニ懲罰セシ現員ヲ掲ケ若シ罰期滿ルモ改悛ノ狀ナク一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科ス
ルカ如キハ一人ニ算セス一月中ニ再ヒ犯則シテ懲罰セラレシモノハ各一人トナスヘシ

一、主刑ノ罰金ヨリ換ル禁錮モ輕禁錮ノ區ニ掲ケルヘシ

一、科料ヨリ換ル拘留モ拘留ノ區ニ掲ケルヘシ

一、諸罰則違犯ノ界内ニハ都テ刑法ニ正條ナシテ他ノ法律規則ニ依テ入場セシ者ヲ掲ケヘシ

一、人員多寡ノ界内最多最寡ノ區ニハ其月中最モ多人數ナル日ノ現員ヲ掲ケ
在監延人員ノ區ニハ毎月一日ヨリ盡日マテ日々ノ在監人員(刑餘留置及ヒ乳兒ヲ除キ)ヲ一ケ月分積
算シタルモノヲ掲ケルヘシ

一、役事界内延人員ノ區ニハ毎月一日ヨリ盡日マテ日々役(内役外役)ニ服セシ人員ヲ積算シテ之ヲ掲ケ
工錢收入高同給與高ノ區ニハ其月中收入及ヒ給與セシ金額ヲ掲ケルヘシ

一、雜報及ヒ雜報附錄ハ總テ六ケ月(自一月至六月自七月至十二月)間ニ在テ入監入場セシ者假ニ出獄シ
タル者幽閉ヲ免セラレタル者ノ現員ヲ掲ケルヘシ

一、諸表中比較ノ界内增減ノ區ニ於ル月報ハ前月ト本月ト雜報及ヒ雜報附錄ハ前期ト本期トヲ比較シ其
增減ヲ掲ケルヘシ　其男女區別ハ男女各別ニ增減ヲ記スヘシ例ヘハ男五人ヲ增シ女六人ヲ減スレハ
減一人ト記スルノ類ナリ

一、囚徒罪質ノ界内ニハ毎月日ノ現員中ニ就キ罪質ヲ差別シテ之ヲ掲ケルヘシ

一、月報摘要ニハ其月中監獄ノ概要(監獄ニ關スル事變)在監人ノ情狀變死ノ頓來傳染病ノ狀況(原因、現
況、消滅)在監人ヲ他管ニ押送スル未決已決ノ者未タ途中ニ在ルトキハ其人員ト其事由ヲ月報摘要ニ掲ケ
ルヘシ

一、他管ニ押送シ又ハ他管ヨリ受取タル其年月日等ヲ蒐集シテ摘錄スヘシ　(別冊畧之)

（）括弧ヲ附スル書ハ總テ朱字以下倣之

（典獄）（捺印）　懲治人名籍　主捺　書記　（氏名印）

| | |
|---|---|
| 本籍出生地族氏名年齢 | （某管下國郡町村番地住何某男弟妹女）<br>（族籍）（何）（某年月日生）<br>（當何年何月何年何ヶ月） |
| 懲治人及ヒ尊屬親ノ營業 | （懲治人ノ營業）<br>（主顧者タル尊屬親ノ營業ノ有無） |
| 親屬 | （父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無） |
| 入場ノ年月日 | （明治何年月日午前後第何時入場） |
| 入場ノ事狀 | |
| 身材 | （長何尺何寸何分肥瘠強弱） |
| 容貌音聲 | （面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黒白四肢ノ姿態其他瘡班、瘊子、癭瘤、黒痣、癜風、天疱瘡、創痍ノ類及ヒ音聲ノ高低ナモ細緻ニ具載ス） |
| 教育及ヒ宗門 | （入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス）<br>（入場後進學ノ景況）<br>（何宗或ハ宗門不詳） |
| 入場中ノ賞罰 | （明治何年月日何ノ實罰ヲ行フ） |

書信贈答ノ月日　（何年何月日何國郡町村住親屬若クハ朋友ニ書信發來）

懲治場ニ留置ノ宣告ヲナセシ裁判所　（明治何年何月某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告）

懲ニ處斷ヲ經シ者ヤル時ハ其事由　（犯由ノ大略及ヒ某裁判所）

事變　（明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス）

放還　（明治何年月日某家ニ放還）

（典獄）（捺印）　未決者名籍　主捺　書記　（氏名印）

| | |
|---|---|
| 本籍出生地族氏名年齢 | （某管下國郡町村番地住又ハ何某子弟妻女）<br>（族籍）（何）（某年月日生）<br>（當何年何月何年何ヶ月） |
| 營業及ヒ親屬 | （營業ヲ詳記スヘシ）<br>（父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無） |
| 乳兒提携 | （男或ハ女）<br>（收監ノ時何歳何ヶ月） |

| | |
|---|---|
| 入監ノ年月日時及ヒ罪件 | （明治何年月日午前後第何時入監）<br>（何罪ヲ犯ス） |
| 身　　材 | （長何尺何寸何分肥瘠強弱） |
| 容貌音聲 | （面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黒白四肢ノ姿態其他瘡斑、瘊子、癭瘤、黒痣、皺皰、天皰、創瘢ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス） |
| 教育及ヒ宗門 | （文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス）<br>（何宗或ハ宗門不詳） |
| 入監中ノ賞罰 | （明治年月日何ノ賞罰ヲ行フ） |
| 書信ノ贈答ヲ許ス月日 | （明治何年月日何國郡町村住親属若クハ朋友ニ書信） |
| 當該官ノ氏名 | （裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名） |
| 保釋還付 | （明治何年月日保釋若クハ還付） |
| 事　　變 | （明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監） |
| 終　　結 | （明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行）<br>（又ハ他監押送） |

（典獄）（捺印）　己決四名簿

主撿（　）書記　（氏名印）



| | |
|---|---|
| 本出生<br>籍地<br>決名<br>氏年 | （某管下國郡町村番地住又ハ何某子弟妻女）<br>（何國郡町村産）<br>（族籍）<br>（何）<br>（某年月某日生）<br>（當何年何月何年何ヶ月） |
| 營業及ヒ親属 | （營業ヲ詳記ス可シ）<br>（父母兄弟及ヒ配偶嗜子孫ノ有無） |
| 乳提携兒 | （男若クハ女）<br>（收監ノ時何歳何ヶ月）<br>（父母ニ先テ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス） |
| 刑名及ヒ宣告ノ月日裁判所ノ名稱 | （何刑若干年月日）<br>（明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告） |
| 收監ノ年月日 | （明治何年月日午前後第何時入監） |
| 犯由ノ大略及ヒ犯數 | （財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大畧ヲ記ス若シ再三犯ナレハ件年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラル） |
| 身　　材 | （長何尺何寸何分肥瘠強弱） |
| 容貌音聲 | （面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黒白四肢ノ姿態其他瘡斑、瘊子、癭瘤、黒痣、皺皰、天皰、創瘢ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス） |
| 教育及ヒ宗門 | （文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス）<br>（何宗或ハ宗門不詳） |
| 入監中ノ賞罰 | （明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ） |

書信賜答ノ年月日　（明治何年月日何國郡町村住親屬若シハ朋友ニ書信發來）

假出獄免幽閉　（明治何年何月何日假出獄或ハ免幽閉）

事變　（明治何年月日病死或ハ發死或ハ脫監或ハ何罪ヲ犯シ復タ來決監ニ入ル）

終結　（明治何年月日滿期放免又ハ特赦）

二十

# 假出獄之證票

某管下國郡町村番地住又ハ何某子弟妻女

族籍　何

身　名籍ノ標本ニ做ヒ詳記スヘシ

容　某年月日生

貌　上ニ仝シ

罪　實犯數

刑　名刑期

及　附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約ヲ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルトキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者疾病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スルトキハ滯留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事

右之通心得サセ假出獄ノ證票ヲ與フル者也

朱印

署印

明治何年　月　日

某監獄署

長官何某　印

○假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證票ノ表面若シハ欄内ニ左ノ二款ヲ附記スヘシ

一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其住居スヘキ地ノ警察官ニ送リ遣シタル事

一警察署ヘ送リ遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニテモ受取得ヘキト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サヽルヘキ事

何管下

科紙半紙

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ

一書信ノ文句規則ニ背キタルアルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルコトアルヘシ

二十一

某監獄署○在監人書信紙○明治　年　月　日

二十二

# 囚徒服役時間表

| 月名／時限 | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 起床 | 午前七時〇二分 | 六時三十八分 | 六時〇六分 | 五時三十二分 | 五時〇一分 | 四時四十九分 | 四時五十分 | 五時十六分 | 五時四十八分 | 六時二十二分 | 六時五十二分 | 七時〇八分 | （一） |
| 就役 | 午前八時〇二分 | 七時三十八分 | 七時〇六分 | 六時三十二分 | 六時〇一分 | 五時四十五分 | 五時五十一分 | 六時十六分 | 六時四十八分 | 七時二十二分 | 七時五十二分 | 八時〇八分 | |
| 小憩 | 午前十分時間第十時ヨリ | 第十時ヨリ十五分時間 | 同上 | 第九時四十分時ヨリ二十分時間 | 第九時ヨリ三十分時間 | 同上 | 同上 | 同上 | 第九時五十分時ヨリ二十分時間 | 第十時ヨリ十五分時間 | 同上 | 第十時ヨリ十分時間 | |
| 午飯 | 正午十二時ヨリ五十分時間 | 十二時ヨリ一時間 | 同上 | 同上 | 十一時ヨリ一時三十分時間 | 十二時ヨリ二時間 | 同上 | 同上 | 十二時ヨリ一時間 | 同上 | 同上 | 十二時ヨリ五十分時間 | |
| 役罷 | 午後三時三十分 | 三時五十分 | 四時 | 四時三十分 | 五時 | 五時二十分 | 五時十分 | 四時五十分 | 三時四十分 | 三時二十分 | 同上 | | （二） |
| 晩飯 | 一時二十八分間 | 一時三十二分間 | 一時五十四分間 | 一時五十八分間 | 一時五十八分間 | 一時五十四分間 | 一時五十九分間 | 一時五十四分間 | 一時五十一分間 | 一時四十九分間 | 一時四十八分間 | 一時三十二分間 | |
| 還房 | 午後四時五十八分 | 五時二十二分 | 五時五十四分 | 六時二十八分 | 六時五十八分 | 七時〇九分 | 七時十四分 | 六時十一分 | 六時四十四分 | 五時三十七分 | 五時〇八分 | 四時五十二分 | （三） |
| 服役時間合計 | 六時二十八分間 | 六時五十七分間 | 七時三十五分間 | 八時三十八分間 | 八時五十九分間 | 九時〇五分間 | 八時四十九分間 | 八時〇四分間 | 八時十二分間 | 七時〇三分間 | 六時十三分間 | 六時十二分間 | |

（一）約テ日出ノ時刻ヲ以テ起床ノ時刻トナス然ルニ年々季節ニ早晩アリ日々分秒ニ差刻アリ加ルニ東國西國ノ別アリ此ニ由テ何レノ地方ニ於テモ分秒ノ差異ナキヲ保シ能ハス故ニ月毎ニ大約之ヲ平均シテ姑ク其起床時刻ヲ登載ス各地ノ司獄官此表ノ區分ヲ準トナシ宜ク裁酌シテ役囚ヲ遇スヘシ

（二）右ノ時間ニシテ工器ヲ併理シ及ヒ盥浴等ヲ爲サシム

（三）約テ日沒ノ時刻ヲ以テ入監ノ時刻トナス

# 證券印稅規則

○太政官布告第十一號

明治七年(七月)第八十一號布告證券印稅規則別冊の通り改正し明治十七年七月一日より施行せ　但明治八年(七月)第百二十號布告い同日より廢止す

右奉　勅旨布告候事

明治十七年五月一日

太政大臣三條實美
大藏卿松方正義

(別冊)證券印稅規則

第一條　凡そ財產の授受及び契約の証明ゐ用ふる証書帳簿い此規則に循ひ印紙を貼用すべし

第二條　証書帳簿を分て二類と爲し其稅率い左の如し

第一類

左に掲くる所の証書帳簿ど金高の有無多寡に拘らず下に定ひる所の印紙を貼用すへし但當座預り金引出小切手は大藏省に稅印の押捺を請ふてとを得

| | | | |
|---|---|---|---|
| 任狀 | 同五厘 | 一金高記載なき約定証文 | 同一錢 |
| 同 | 一錢 | 一讓與証文 | 同一錢 |
| 一遺(金物)証文 | 同一錢 | 一跡式讓証文 | 同一錢 |
| 一雇人請合狀 | 同一錢 | 一金高記載なき預り証文 | 同一錢 |
| 一辨地小作証文 | 同一錢 | 一諸物品借用証文 | 同一錢 |
| 一諸物品預り証文 | 同一錢 | 一金高記載なき諸物品預り証文 | 同一錢 |
| 一諸物品切手 | 同一錢 | 一(地所家屋)預り証文 | 同一錢 |
| 一(借地借家)証文 | 同一錢 | 一賣買仕切書 | 同一錢 |
| 一保險証文 | 同一錢 | 一諸會社株券 | 同一錢 |
| 一送金手形 | 同一錢 | 一(金錢諸物品)通帳(一年以內一冊ゐ付) | 同一錢 |
| 一(金錢諸物品)判取帳(同) | 同二十錢 | 一結社約定書 | 同一錢 |

但結社約定書に金圓授受貸借に係る條項ありてとか効力を確定する証書帳簿と金高記載なしと雖も第二類金高記載ある諸般の契約証書に準し印紙を貼用すべき　左ゐ掲くる所の証書い金高五圓以上のものに限り下に定ひる所の印紙を貼用すべし

一營業に關する送狀　印稅一錢

一營業に關する請取書　同一錢

右諸証書を通帳と爲すときは都て一年以內一冊に付一錢の印紙を貼用すべし

第二類

左に掲くる所の証書は金高の多寡に隨ひ下に定むる所の割合を以て印紙を貼用すべし但し爲替手形約束手形は手形用紙を用ふべし　一金錢借用証文　一金錢定期預り証文　一（地所家屋）賣買証文　一金高記載ある諸物品預り証文　一諸物品賣買証文　一金高記載ある諸物品借用証文　一金高記載ある諸般の契約証書　金高一圓以上二十圓未滿　印税一錢　金高二十圓以上五十圓未滿　同二錢　金高五十圓以上百圓未滿　同四錢　金高百圓以上二百圓未滿　同六錢　金高二百圓以上三百圓未滿　同十錢　金高三百圓以上四百圓未滿　同十四錢　金高四百圓以上五百圓未滿　同十八錢　金高五百圓以上六百圓未滿　同二十二錢　金高六百圓以上八百圓未滿　同二十六錢　金高八百圓以上千百圓未滿　同三十錢　金高千百圓以上千五百圓未滿　同三十四錢　金高千五百圓以上二千圓未滿　同三十八錢　金高二千圓以上二千五百圓未滿　同四十四錢　金高二千五百圓以上三千圓未滿　同五十錢　金高三千圓以上三千五百圓未滿　同六十錢　金高三千五百圓以上四千圓未滿　同八十錢　金高四千圓以上　同一圓　右諸證書を通帳と爲すとき其附込見積金高に隨ひ下に定むる所の印紙を貼用すへし　金高百圓未滿　印税四錢　金高一圓以上二十圓未滿　印税一錢　金高二十圓以上　金四十錢　金高百圓以上　金二錢　右諸證書を通帳と爲すとき其附込見積金高に隨ひ下に定むる所の印紙を貼用すへし　金高五十圓未滿　印税二錢　金高百圓以上　金四錢　金高五十圓以上百圓未滿　金八錢　金高二百圓以上五百圓未滿　金二十錢　金高二千圓以上千圓未滿　金四十錢　金高五百圓以上千圓未滿　同五十錢

第三條　前條に掲くる所の證書帳簿と効用を同ふするものゝ其の名稱に拘らす稅率に照し相當の印紙を貼用すへし

第四條　印紙を貼用すへき證書帳簿にして第五條の手續に循ひ印紙を貼用せさるものゝ民事裁判上之れを受理せす但し處罰を受くる後印紙を貼用したるものゝ此限に在らす

第五條　印紙ゝ證書の差出人又ゝ帳簿主に於て證書ゝ授受の前帳簿ゝ使用の前に貼用し證書帳簿記名の下ゝ押捺する印を以て證書帳簿の紙面と印紙の彩紋とにかけて消印すへし

第六條　印紙及ひ手形用紙の種類定價ゝ布達を以て之れを定む

第七條　印紙及ひ手形用紙ゝ官の許可を得たる賣捌所に非されゝ之を賣捌くことを得す

第八條　印紙を貼用すへき帳簿仕切書送り狀ゝ主任官之を檢查することを要せす　一官廳より差出す證書帳簿

第九條　左に掲くる所の證書帳簿ゝ印紙を貼用することを要せす

一官吏又ゝ官吏若くゝ布告布達又ゝ達を以て定めたる議員若くゝ公立學校病院に從事するもの各其職務に依て用ふる證書　一國庫金取扱所又ゝ爲換方より官廳ゝ差出す預り金に對する抵當證書　一國庫金取扱所又ゝ爲換方より官廳に對しる諸上納金の預り證書帳簿　一金員記載ある官廳より命令書に對し國庫金取扱所又ゝ爲換方より差出す請取證書　一罹災救助金獻金寄附金ゝ關し人民より官廳ゝ差出す證書

第十條　第二類の帳簿ゝ初丁へ附込見積金高及ひ使用期限紙數を記載すへし但し物品の授受ゝ關するものゝ其代價を記載すへし

第十一條　證書帳簿ゝ稅率の異なるものを雜記するとき各相當の印紙を貼用すへし

第十二條　印紙貼用濟第二類の帳簿見積金高又ゝ使用期限のみちたるとき其官該帳簿に記載し置き主任官檢查の節これに檢印を受くへし

第十三條　前條の帳簿餘白ありて尙之を使用せんとするときゝ第十條の手續を以て更ゝ相當の印紙を貼用すへし

第十四條　第二類の帳簿見積金高未た滿たさるゝ紙數盡きさるゝときゝ更ゝ紙數を增加するとを得此場合に於ていゝ其帳簿初丁見積金高又ゝ期限の側に其事由及ひ增加したる紙數を記載すへし

第十五條　證書帳簿に外國貨幣を以て員數を記載するときゝ內國の貨幣に改算したる金高を附記し相當の印紙を貼用すへし

第十六條　取換せ證書ゝ雙方とも相當の印紙を貼用すへし

第十七條　証書に副証書を附し又は裏書等を為し本証書と効用を異にするもの若くは金高に増減を生ずるものは其副書又は其裏書より更に相當の印紙を貼用すへし

第十八條　此規則を犯し脱税に係るものは處罰を受くる後證書帳簿の受取人に於て相當の印紙と貼用することを得

第十九條　印紙を貼用すべき證書帳簿に之を貼用せず若くは不足税の手形用紙を用ひるものは脱税高二十倍の科料又は罰金に處す其証書帳簿を受取たるものも亦同し

第二十條　第十八條の場合を除く外第五條の手續に據て消印を爲さず又は他の印を以て消印したるものは脱税高十倍の科料又は罰金に處す其證書帳簿を受取たるもの亦同し

第二十一條　此規則を犯したる證書帳簿に請入證人として加印したるものは各正犯と係る科料罰金の半額に相當する科料又は罰金に處す

第二十二條　第八條の證書帳簿の檢査を拒みたるものは二圓以上二十圓以下の罰金に處す

第二十三條　第十條及び第十三條を犯したるものは二圓以上十圓以下の罰金に處す

第二十四條　第十二條及び第十四條を犯したるものは一圓以上一圓九十五錢以下の科料に處す

第二十五條　第七條を犯したるものは所持の印紙及び賣得金を沒收し五圓以上五十圓以下の罰金に處す

第二十六條　前數條の罪を犯したるものは刑法の不論罪及び減輕再犯加重數罪俱發の例を用ひす

○太政官布達第十二號

今般第十一號布告を以て証券印税規則改正候に付ては印紙及び手形用紙の種類定價左の通り相定め但印紙は當分の内新舊取交貼用することを得

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 賞緑色 | 同二錢 | 萌黄色 | 同五錢 | 橙黄色 | 同十錢 |
| 赤色 | 同一圓 | 手形用紙 | 老緑色 | 定價一錢 | |
| 橙黄色 | 同八錢 | 結梗色 | 同廿五錢 | 淡黒色 | 同五十錢 |
| 淡緒色 | 同十五錢 | 淡紅色 | 同一圓 | 淡青色 | 同五十錢 |
| 淡黄色 | | | | | |

明治十七年五月一日

太政大臣三條實美
大藏卿松方正義

金高記載ノ証書印紙貼用樣式

証書差出人ノ印

證

印紙 印紙

一金何百何拾圓

右者、、、、、、、、、、

年月日　何ノ誰印

何ノ誰殿

証書差出人ノ印

証

一金何圓何拾錢

一金何拾圓

印紙

合金何拾圓何拾錢

右者、、、、、、、、、、

年月日　何ノ誰印

何ノ誰殿

金高記載ナキ証書印紙貼用樣式

証書差出人ノ印

何証文ノ事

印紙

今般何々、、、、、、、、、

年月日　何ノ誰印

第一類帳簿印紙貼用樣式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込期限本年限

紙數何百何拾何葉

年月日　何ノ誰印

第二類帳簿印紙貼用樣式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限何年何月ヨリ

何年何月迄

何年

紙數何百何拾何葉

年月日　何ノ誰印

第一第二類帳簿附込印紙貼用樣式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

既帳簿附込期限本年限

印紙 印紙

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限何年何月ヨリ

何年何月迄

年

紙數何百何拾何葉

年月日　何ノ誰印



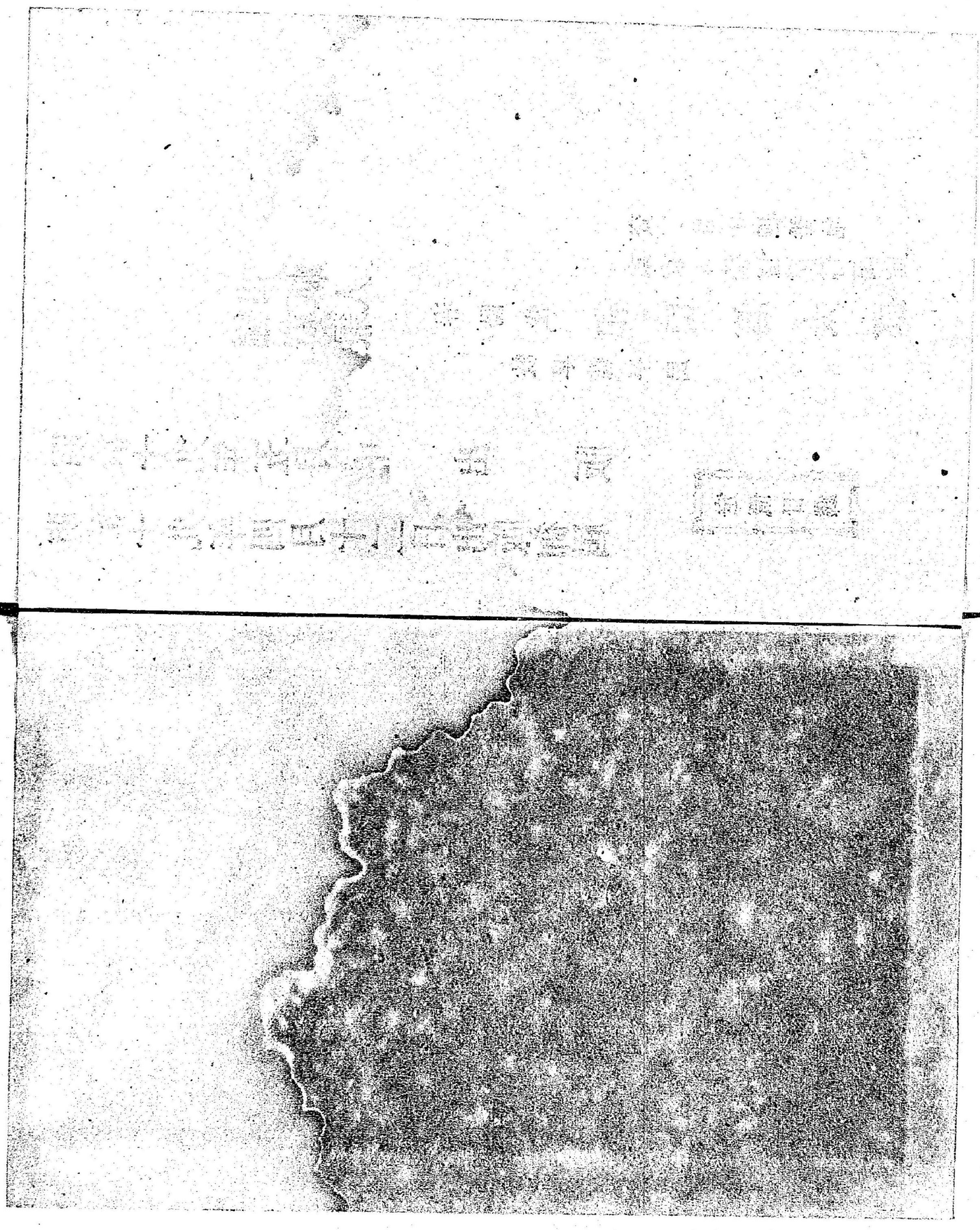
明治十九年四月　廿一日出版御届

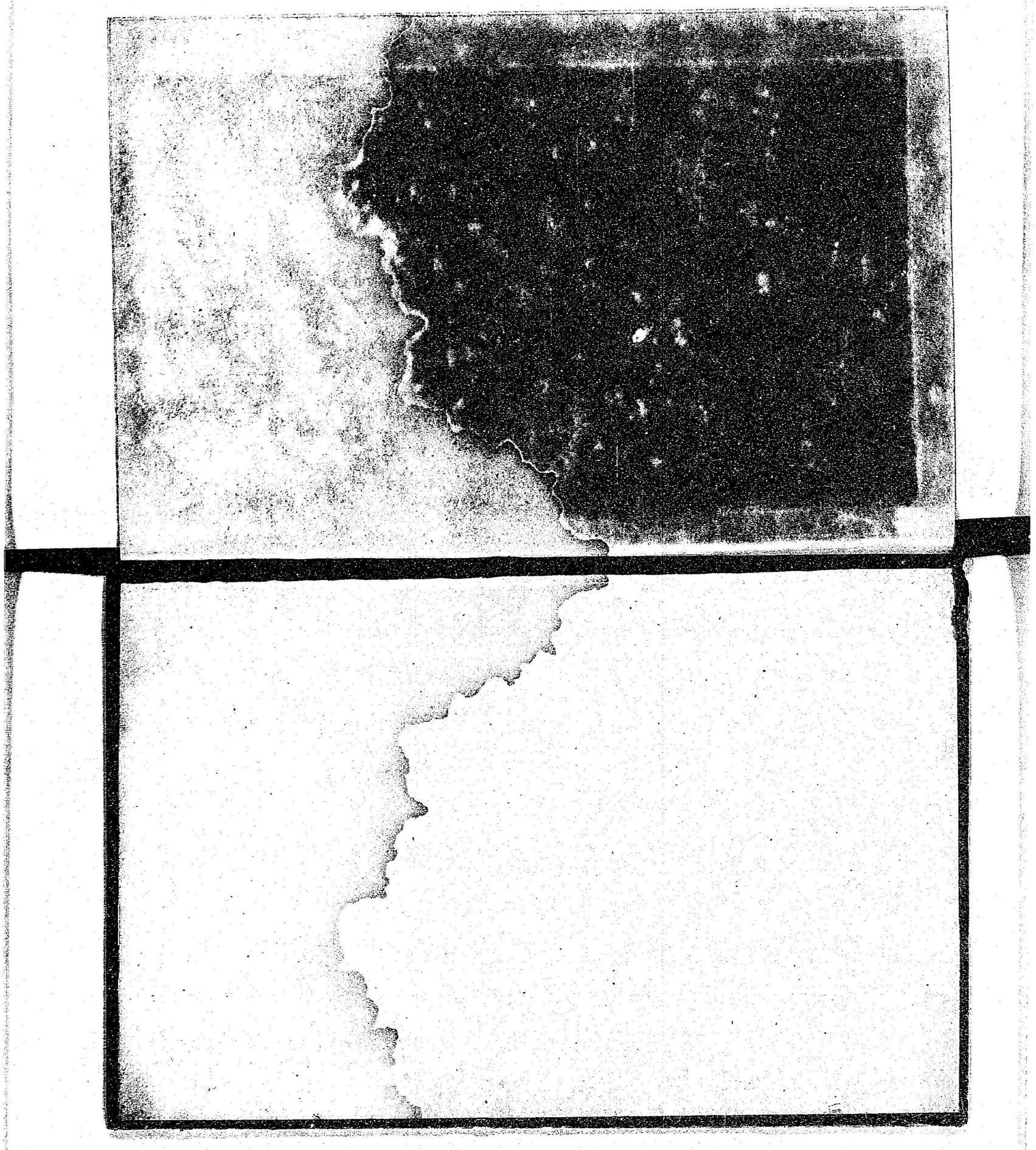
明治十九年五月　中　出　版

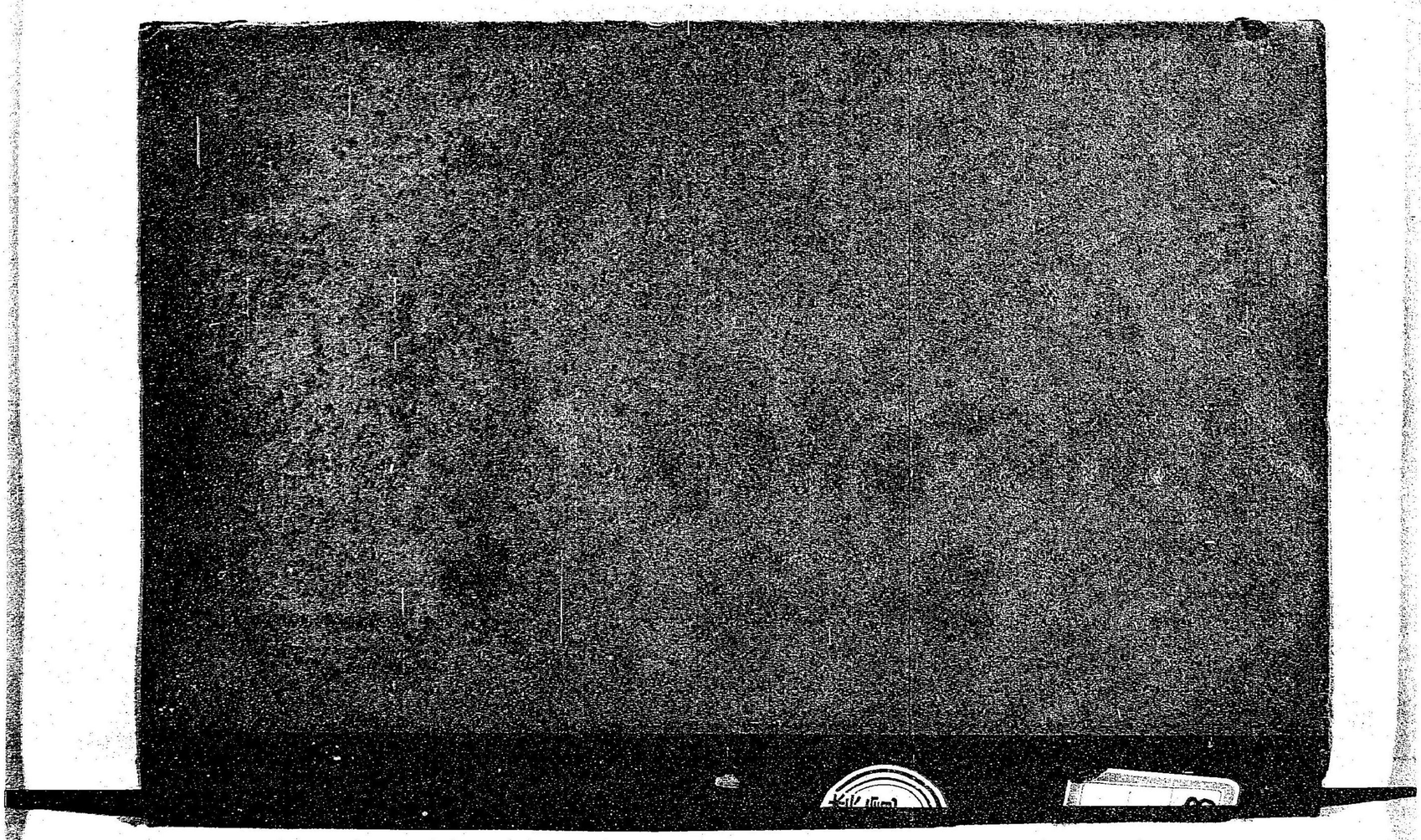
定價卅錢

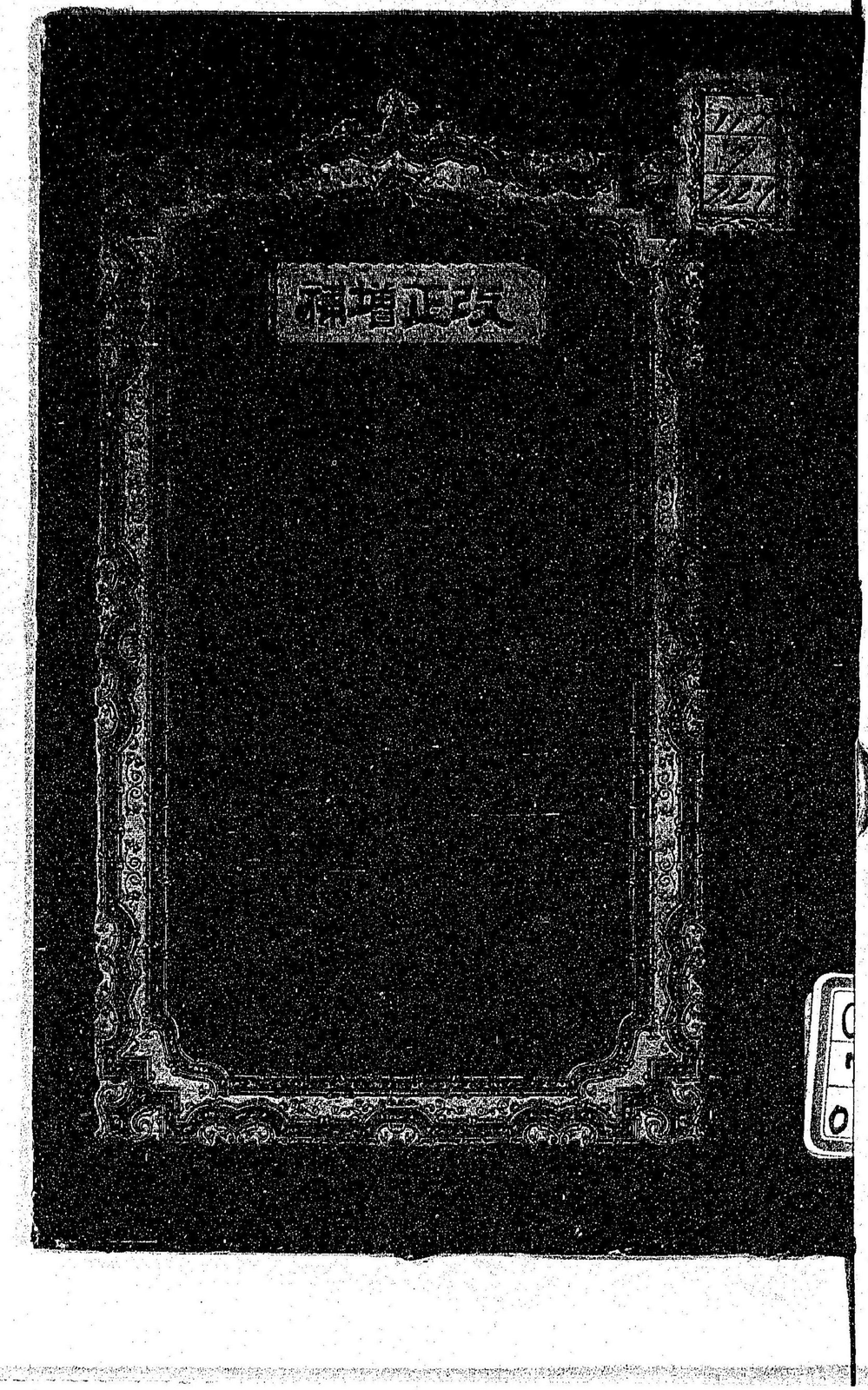
編輯兼出版人　岐阜縣平民　春陽堂　和田篤太郎

東京々橋區南傳馬町壹丁目十四番地










035813-000-3

CZ－711－0103

刑法，治罪法（改正增補）

春陽堂

M19

BBP－0399